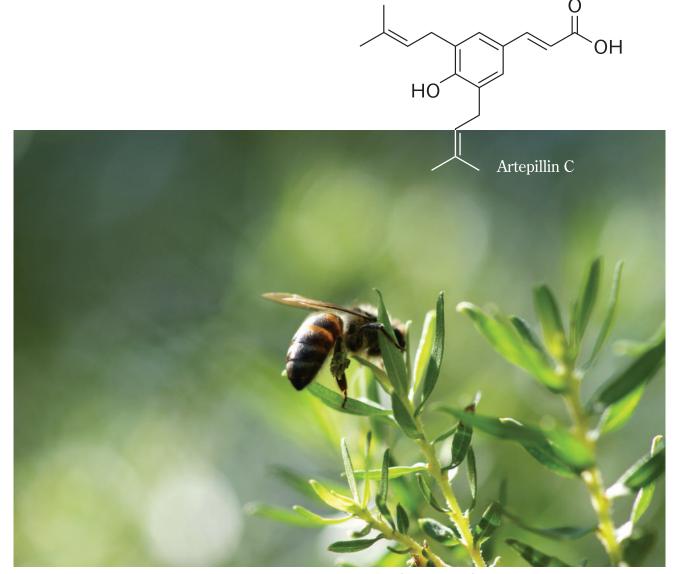
日本大学薬学部校友会





53



 $\textit{Baccharis dracunculifolia} \ \succeq \ \ \forall \ \textit{NF} \ \ (\textit{Apis mellifera})$

薬局実務実習の受け入れを経験して

一事前実習を知ることで実務実習に生かせたこと―

八千代市薬剤センター センター長 小川 敦



5月17日より薬学生を受け入れ ての薬局実務実習が始まりまし た。受け入れ準備の段階で既に予 想されていたこともありますが、 初めての経験でもあり、実際に薬 学生を受け入れてみて様々なこ とが分かってきました。新たに気

付いたことを含めて、2カ月半の実習を振り返ってみます

実務実習の受け入れ開始を前にして、私たちがはじめ に苦労したのは実習スケジュールの作成です。ひとコマ 90分で区切った時間割と膨大な量のコマ数を前にして、 患者さん、お客様の混み具合や処方箋、相談の内容によっ て決して計画通りに進められない日常業務とのギャップ に、多くの指導薬剤師が戸惑ったことと思います。実務 では時間割通りには業務が進みませんし、業務を90分単 位に区切って行うことなど不可能ですので、各自が大変 悩みながら、やっとの思いでこの実習スケジュールを作 成しています。実際には日薬のモデルを参考にしている ことが多く、千葉県では評価システムに組み込まれたソ フトを利用して作成した方が多いと思います。しかし、 このソフトは県内の薬科大学で統一することができず、 私たちへの提供が大幅に遅れたことなどが重なり、受け 入れ間際で混乱することとなりました。スケジュール作 成は指導薬剤師にとって実務実習全体を把握し、要点を 整理するために大変重要な作業です。しかし、実習の実 施にあたり、あまりこれに振り回されると実務に影響が でる恐れがあります。スケジュールに従った学生指導に

夢中になるあまり、混雑時の対応がおろそかになり待ち時間の遅延を招くなど、実習開始から混乱しそうになって、あわてて調整した受け入れ薬局の例もあります。実習終了後に「毎日のスケジュールをこなすのが大変だった。」と嘆く指導薬剤師が多いのも、スケジュールが実活に沿っていないためです。今後は受け入れ薬局からのされるものと期待します。現時点での実習スケジュールはあくまでも目安と考えるべきで、個々の到達目標がきちんと達成できているかを確認して行くことに、重点を置くべきです。このスケジュールに関わる問題は、実習をすめる上でその後も尾を引いて行きます。

事前実習に参加して学んだこと

日本大学薬学部セルフメディケーションユニットの安川教授にお誘い頂き、昨年9月から12月まで、事前実習のお手伝いをさせて頂きました。担当は鑑査と疑義照会でしたが、せっかくの機会でしたので、担当の空き時間に他の事前実習を少しずつ見学させて頂いています。大学側では充分に準備を重ねてきたこととはいえ、初めてのことですので、皆さん大変ご苦労されたことと思います。見学して行く中で、学生に理解し易いようにきめ細かな工夫がされた実習内容には感心させられました、何より熱心に指導をされている先生方の姿がとても印象的です。最近は病院等を中心に実務経験のある方が大学内にも増えてはいるのでしょうが、それでも絶対数が足りないと思われます。そのような中で期待をはるかに超える内容になっていたのには驚きました。皆で意見を出

目次

特集「薬局実務実習の受け入れを経験して」
八千代市薬剤センター センター長 小川 敦 2
卒後教育講座のご案内 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
追悼 澤村先生 ・・・・・・・・・・・・ 7
正会員募集7
研究ユニットだより ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
賞関係14
ユニット同窓会 ・・・・・・・15
物故者名簿15
桜の木の下で ・・・・・・・16
大学・校友会ニュース ‥‥‥‥‥‥‥‥ 19

薬学部ニュース ・・・・・・・・・・ 20
桜薬会ホームページ求人情報募集 ・・・・・・・・ 21
薬学部校友会奨学金制度の設立と専用口座開設・・・・・・ 22
平成21年度薬学部交友会研究奨励金研究報告 · · · · · · 22
会務報告 · · · · · · 23
会合予告 · · · · · · · 25
薬学部校友会支部規定・・・・・・・26
会費納入報告 · · · · · · 27
卒業期別年会費納入率 · · · · · · 28
★表紙·写真 撮影者:安川 憲

撮影場所: ブラジル・ミナスジェライス州

し合って、学生たちが互いにディスカッションする場面にも立ち会いました。病気に対する理解や薬剤師としての経験では不足している点はありましたが、テーマに集中して議論している姿勢は大変好感が持てましたし、よくトレーニングされているなと思いました。また、私の受け持ちでは、学生を指導する上で曖昧になっていること、例えば「計量誤差範囲はどこまでを認めるのか?」「疑義照会で生じた訂正内容を、処方せんにどのように記入するのか?」等を改めて確認させられました。ただ残念なことに大学内に薬局の実務経験者がほとんどいません。事前実習に参加することは実務指導をする側にとってもなことに大学内に薬局の実務経験者がほとんどいません。事前実習に参加することは実務指導をする側にとってもなことに大学内に薬局実務者の参加を、今後もよく検討して行く必要があると感じました。





疑義照会の実際、調剤鑑査の意義、 医薬品の適応外使用

薬学生たちは、3ヶ月間の事前実習を終了した後に共用試験(OSCE、CBT)をパスして実務実習に参加してきます。したがって実務実習に参加するための基礎を事前実習で学んでくるわけですが、その事前実習の内容と調剤の現場との違いはどの程度あるのでしょうか?私が担当した疑義照会と鑑査を例に考えてみます。

日大では250人を超える学生が対象ですので、5組に分 けられています。さらに1組を2班に分けて1回の実習 は25人、週2回午後の90分3コマを当てて1日ずつそれ ぞれの実習を行いました。第1日目は疑義照会です。は じめに担当教授の講義の後、私が実際行っている調剤業 務の流れと疑義照会の事例を話します。次のコマでは学 生に処方箋を配り、処方鑑査を行った上で疑義照会を3 台のインターホンを使用して模擬体験します。多人数を 次々に交代させながら行って行かなければならない都合 で、教室を利用してつい立越しの応対となりましたが、 感心するのは、電話のかけ方や言葉遣いに問題のある学 生が少ないことです。普段の友達同士の会話やメールの やり取りとは明らかに区別していて、はじめのうちは手 本を見せてから始めてもらっていたのですが、後半の組 ではその必要がないと思えるほどでした。私は電話の応 対を聞きながら学生が照会した疑義の内容について確認 し、疑義照会の必要性や照会上に生じた医師からの質問 等の受け答えなどを指導して行きます。疑義照会の終わっ た学生は、処方箋に照会内容と変更があった場合は処方 の訂正を記入して行きますので、その内容を確認して不 備があれば訂正させて終了となります。残り1コマは、 全員の前でひとりずつ電話をかけ応対の仕方や照会内容 を検討して行きます。例題に上げた処方内容や疑義照会 の間違えや照会もれに対する指摘は、事前に良く準備で きていましたが、個別に生じてくる疑義内容の検討やそ れを裏付ける薬学的根拠については、指導者の人数が不 足していて充分に対応ができませんでした。学生は添付 文書や教科書等を参照して鑑査に当たるのですが、たと えば散剤の処方では用量を計算するために苦労していま すし、適応外使用されることの多い医薬品などでは、な かなか理解できないこともあります。これらを考慮して 指導に当たるためには、やはり実務経験は必要ですし、 相互作用や飲み合わせ、サプリメントやOTC薬との比 較など、薬局薬剤師として経験している様々な事柄を実 例を示して分かりやすく説明して行くことも必要なので すが、限られた時間内での対応は無理ですし、この点は 実務実習で多く体験して身につけることができますので、 そちらに期待されているのかもしれません。今回は処方 箋鑑査上から発生した疑義ですが、実際にはお薬手帳や 薬歴に記載された情報から、さらには1包化や粉砕、配 合変化を考慮したり、ジェネリック採用や服薬上での工 夫、最終的な投薬時に発覚した処方の間違えや患者の要 望など、いたるところから疑義が発生することを理解さ せるために、調剤業務の流れを把握することを強調しま

2日目の鑑査についても同じように講義に続き私が実 務の紹介をしました。調剤ミスの事例を上げて説明し、 ミス防止に関する対策はインシデント・アクシデント報 告を通して話します。疑義照会と同様に鑑査も調剤の流 れ上にあることを理解してもらいます。実習は最終鑑査 を想定して、実薬と薬袋、処方箋がセットされた机が10 テーブル用意されています。タイムキーパーの合図で学 生は順繰りに回って、薬剤の規格、数量、破損の有無、 薬袋の記載間違え等を確認して行き、間違えのあるもの はメモに記入します。最後まで終了した時点で答え合わ せをお互いにするようにします。錠剤の鑑査は比較的に スムーズに進みますが、散剤になると途端に時間がかか り、慌てて計算を間違えたり、確認手順が抜けたりします。 実習を行う上で調剤ミスや薬袋記載ミスのある例題を用 意してあります。学生たちは「間違っている」事を前提 に鑑査していますので、鑑査漏れはほとんどないと思い ます。その点実務では調剤されたものが次々に鑑査に回っ てきて、そのほとんどが正しく調剤されたものです。慣 れや思い込みで鑑査を通り抜けてしまうことについては この実習ではあまり実感がわかないかもしれません。作 業としての鑑査ではなく、その重要性が身を持って体験 できるためには、実務実習が必要です。また、事前実習 全体が調剤の流れの1部分を分割して行っている関係で、 鑑査で発見された調剤ミスが、どのような理由で、どの 時点で発生したかを確認できません。したがってインシ デント報告を作成する事まではできず、もっとも重要な 調剤ミスを無くすための対策の検討ができないことにな ります。この点も実務実習でよく研修しておく必要があ

り、これらは事前実習に参加したことで気がついた点です。学内の模擬薬局や調剤室を利用しての実習(実際の調剤の実習を行っている組が優先的に使用)ではないために、緊張感、緊迫感を出しながら、患者さんの生命に直接関連する研修項目をしっかり理解してもらうのはなかなか難しいことでした。



薬局の業務を正しく理解する

私は実務実習を開始する際にまず、薬局の機能を確認 するようにしています。「薬局の機能(業務)は何か?」 と質問するのですが、学生の答えは調剤に関連すること に集中してしまいます。医薬品の供給は答えられる場合 があっても、薬事衛生を上げられる学生はまずいません。 そこで、薬局の業務=薬剤師の任務と考えていると告げ、 薬剤師法に明記されている「薬剤師は、調剤、医薬品の 供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛 生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を 確保する」を取り上げて説明します。しかし、学生が答 えたように、薬局の業務が何故調剤に特化してしまうの でしょうか? 先ほどの薬剤師法では、任務に続いて薬 剤師の業務として主に調剤を上げています。その業務と して掲げられている調剤を中心にして学生が教育を受け るのは当然のことですし、医薬分業の進展と医療法の改 正などで、薬剤師が医療の担い手として認められるよう になり、我々の実務も調剤の比率が格段に増え、近年新 規開業した薬局の多くが、調剤を中心に行ういわゆる調 剤薬局であることも事実です。だからこそ薬局の機能を 充分に教えてから、実習を始める必要があります。薬事 法から薬局と一般販売業の違いを確認する際も、一般販 売業の機能を有しつつさらに調剤が加わったものが薬局 であることを理解してもらいます。学生たちに最も理解 されていないのが、薬事衛生業務です。薬事衛生とは、 薬学という知識を活かし、薬の製造・販売・利用に際し ての環境整備・管理・研究などが主な業務とされていま す。医薬品以外にも食品や廃棄物・毒物劇物などの製造・ 廃棄に関わる衛生管理、環境管理などの広い範囲で業務 を行います。そこで調剤に関しては、前述したように、 事前実習では経験できない事(接遇、数多くの調剤鑑査、 インシデント・アクシデント報告、ミス防止策の工夫、 薬歴の記載、処方鑑査と疑義照会等)を中心に教えて行 き、これらと比較、関連付けて医薬品の供給、薬事衛生 業務の重要性を考えさせます。公衆衛生の向上及び増進 をよく理解した上で国民生活を健康に維持できるように、 薬剤師だからできること (ファーマシューティカルケア)



の重要性を強調し、気付 かせることに重点を教えでした。 調剤だけを教え師を表えいとしての自覚や自立しに時間では、肝心なでは、 肝心なでは、 たいとうのに時間にいます。また、 は、までいます。また、 は、はいと考えます。

OTCが教えられない。 本当にOTCが分からないのか?

さて、各薬科大学でそれぞれに工夫をこらして行われ ている事前実習ですが、はじめに述べたように、学内 に薬局実務の経験者が少ないことから、調剤以外の業務 (医薬品の供給、薬事衛生) に関してはあまり取り上げら れていないようです。例えば事前実習で接遇(ファーマ シューティカル・コミュニケーション)に関する実習に、 OTC販売のやり取りもありましたが、接客時の対応手 順が調剤の初期インタビューと変わらず、相談内容に関 わらず決められた質問をして行き、必要性の有無もなく 喫煙、飲酒まで確認しているのには、違和感を受けまし た。薬局薬剤師のOTCの相談販売は、セルフメディケー ションとプライマリーケアの中間にあり、ファーマシュー ティカルケアを最も発揮し易い場面のひとつと考えてい ます。つまり、調剤以上に相談者の病気を理解し、悩み や苦しみに対してさらに踏み込んで、積極的に治療方法 を探す手伝いをする必要があります。では、実際にOT Cの販売経験がない場合は、学生に指導できないのでしょ うか? 確かに経験が豊富にあれば自信を持って教える ことが出来るのですが、少なくとも全く経験の無い学生 が相手ですから、指導薬剤師と一緒に薬品パッケージの 裏を見て内容成分を確認しながら薬は選ぶことができま す。スイッチOTCも多くなっているのですから、調剤 でよく処方されている薬剤を選択しても良いと思います。 大切なのは薬が分からないからとすぐに受診勧告をせず に、薬剤師として出来る限り役立てるように努力するこ とです。薬局製剤や漢方の煎じ薬もきちんと取り入れて、 実務としてやらないまでも、実習すべきでしょう。経験 がないので消極的になるのは分からなくはありませんが、 OTC販売には何故薬剤師が必要かをきちんと理解して おくことです。教えるべきは、セルフメディケーション と医療における薬剤師の位置づけですし、登録販売者の 知識と実力を把握した上で、協力してよりよいケアを提 供することです。

薬剤師過剰時代への対応と患者、顧客の信頼

学生は自分たちが薬剤師になる頃には、薬剤師が余りはじめると言われていることを良く知っています。そこで薬剤師過剰時代の薬剤師の役割について、よく考えながら実習をするように指導します。つまり我々既存の薬剤師も含めてですが、これからの薬剤師に必要な資質を

学ぶことが大切です。薬剤師を取り巻く環境(保険調剤、 ジェネリック医薬品、在宅医療、リスク薬剤管理など)が、 常に変化していることを詳しく説明して行きます。また、 医師をはじめとした医療従事者全体が変革を必要とされ ていることから、広い視野で医療全体を見て行くことが 大切ですので、その中で薬剤師のできる業務の広がりの 可能性を考えます。これからの薬剤師には、経験と勉強 を積み重ねてゆかなければなりませんが、そのためには 常に前向きに学んで行く姿勢が大切です。実習スケジュー ルとは別に、医師会の勉強会へ自主的に参加するように 勧めますが、きちんとした理解がされていると進んで参 加してくるようになり、多くの刺激を受けることができ ます。専門薬剤師、学術研修、学会発表、学術論文、共 同研究など、八千代市薬剤師会、八千代市薬剤センター での取り組みを、実例を上げて説明し理解してもらいま した。さらに医薬分業の功罪についても話します。医薬 分業の恩恵を受けるのは、国民でなくてはならないはず ですが、その進展によって経済的に潤ったのは薬剤師で す。もちろん院外処方の発行に向けて長年努力をされた 方々がおられます。処方箋がまだ少ない頃から、収益の 一部を備蓄薬の充実にあて受け入れの準備を進めてこら れました。調剤経験が充分にないとの理由で、私費で病 院実習をされたり、受け付けた処方薬がなければ、遠方 の薬局からも小分けを手配して患者さんに届けたりしま した。それはすべて薬局薬剤師の調剤に対する強い思い からで、利益や採算を考えて行っていたわけではなく、 正に薬剤師法にうたわれた任務を遂行するための行為で した。しかし、現在はその当時のことを知る薬剤師も少 なく、処方箋を受け付けることが当たり前のようになっ ています。一般薬局でも自然と増えた処方箋を受けるこ とで、調剤を中心とする形態に変化した薬局が多くなり ました。薬剤師の対応の悪さや、調剤ミスによる健康被 害に多くの批判が集まる中、私たちは素直に反省する必 要があり、医薬分業の進展はある意味では、薬剤師の油 断や怠慢を招いているのではないでしょうか。そのよう な批判を受けないためにも、私たち薬剤師にできること を真剣に考えて、患者さんの役に立つことで確かな実績 を残して行くことが必要と話します。それが果たせる薬 剤師になることが大切で、新しい薬剤師像をしっかり確 認して行くことを教えます。私たち薬剤師が信頼される 努力をすることでこそ、医薬分業の恩恵が国民に行き渡 ることができ、このことをしっかり理解するようにすれ ば、薬剤師過剰時代であっても充分な存在感が出せると 話し、私たちも若い薬剤師の活躍を大いに期待している と伝えました。

学生にどこまでさせたらよいのか?

さて、薬剤師の現状と役割については、一度に理解できることではありませんが、目的意識や目標が明確になって行くと学習意欲が湧き、理解も深まりますので、実習全体を通して繰り返し取り上げます。そこで実際に手を動かして作業をする時間を多く取り入れて、その中で少しずつ体験できるようにして行きます。例えば実習の早い段階で錠剤のピッキングをさせると、学生にとっては

比較的すぐにできて実務に携わった感があります。実習 を始めるとはじめの1~2週間は緊張していますが、次 第に慣れが出てきます。この慣れが飽きや驕りにつなが らないように、学生たちが実務を行っている間、常に新 しい気持ちで臨めるように配慮して行きます。ピッキン グのような単純な作業がスムーズにできるようになると 作業の中から自分で発見できることがあります。全体の 処方の傾向、曜日や日付による変化、薬剤の動き、偏り、 棚に書かれた注意事項、薬剤師の動作の変化、鑑査し易 い錠剤の揃え方、声かけのタイミング等、しっかり観察 させて、気付いたことを必ず確認しまとめさせます。指 導薬剤師によっては、「ミスさせない配慮?」をしている 場合がありますが、実習が進むにつれて難易度を増して 行かないと学生の為になりませんし、ミスがあった時点 でよく考えさせることは大変重要です。この様に、事前 実習の鑑査の様に間違え探しだけではすまないのが実務 であることをはじめて学ぶことができるのです。さらに、 処方箋の少ない時間帯と混雑時をどのように織り交ぜて 実習させるのか?を考えた時、余裕のある時は鑑査と調 剤を交代で、混雑時は軽い内容の鑑査を数多くさせて、 調剤は比較的重い内容の処方を集中して担当させるなど すれば、鑑査の必要性と正確な調剤を行うための工夫が 如何に大切かが理解できると思います。また、接遇の適 性は個人差があり、それぞれの個性が出やすいので学生 の資質を良く観察して、個々に判断して適確に指導を行 なった上で実施するのですが、実務実習開始2週間で投 薬しているところもあり、指導薬剤師によって判断に違 いがあります。投薬内容の優劣も評価しなければならな いのですが、投薬する学生が処方内容や薬歴上の問題点 を把握できているかは重視すべきです。いつから投薬さ せるのがよいか? については、明確な答えがありませ ん。学生にどこまでさせるかを考えるよりも、学生が何 をしたか、どこまでできたかが重要ですので、投薬後の フォローや薬歴記入内容については、詳しく話を聞いて アドバイスをして行きます。最近よく言われている確認 項目、食事、排泄、睡眠、運動、(認知機能)、薬剤、病 気の認識は、学生の考える投薬との違いを明確にできま す。例えば、投薬・服薬指導で「日頃健康管理で心掛けて いることはありますか?」と声かけするように指導する など、具体的なアプローチの仕方を学生とともに考えて 工夫して行きます。QOLやADLは知っていても、そ れを投薬に生かして行くのが実務ですので随時実施して 行きます。患者さんの様子を見ることからさらに進んで、 患者さんの暮らしが視れるように、日常生活で困ってい ること、サプリメントや健康食品を購入している理由、 ダイエットや禁煙の情報、テレビの健康番組の話題等を 話して行く中で、患者さんとの信頼関係が作られて行く 過程を見ることで、学生は薬局薬剤師が調剤以外の業務 を含めて総合的に接客、接遇を行っていることが充分に 理解できると思います。

誰のための実務実習なのか?

八千代市薬剤師会でも定期的に、外部講師 (病院の医師等)にお願いして勉強会を開催しております。はじめ

に取り上げましたように、実習期間中の学生にも任意で参加を促していますが、この会には病院薬剤師も多数参加して頂いていますし、時には座長をお願いすることもあります。また、薬剤センターで行っている夜間の調剤や行政からの委託を受けている災害時の備蓄医薬品の管理などでも、病院薬剤師の協力を受けています。また、最近は東京女子医大八千代医療センターの呼吸器科と薬剤部に協力して、吸入指導を充実させるための指導マニュアルを作成するなど、新たな協力体制が整ってまいりました。今後は病院と薬局の実務実習内容をよく照らし合わせて、相互に協力し合える環境作りの動きも出てきそうですし、薬局薬剤師、病院薬剤師、薬科大学による三

薬(薬・薬・薬)連携は、実務自習を通してさらに深まって行くと考えます。学生が失敗から学ぶように、我々も実務実習の内容を常に見直し、より良い内容に改善する努力を重ねなければなりません。実務実習は我々が日薬で掲げる7つ星薬剤師をめざして行く上で、重要なものとなって行くことでしょう。実務実習は始まったばかりですが、私たちが今あるのは、先達の薬剤師の方々の絶え間ない努力と職能に対する熱い思いがあったからです。その資産をしっかりと引き受けた以上、国民の理解と信頼に充分に答えられる薬剤師を出来る限り多く輩出して行きたいものです。

小川 敦(おがわ あつし)

略歴

昭和54年:日本大学理工学部薬学科卒業

昭和54年:薬局勤務(都内)

昭和56年:福神株式会社(現アルフレッサ)勤務

昭和59年:薬局勤務(都内)

平成5年: すずらん薬局開局 (千葉県八千代市) 平成17年: 特定非営利活動法人やちやく設立 平成18年:八千代市薬剤センター開設(センター長兼務)

平成21年: 日本大学薬学部臨床教授

日本薬剤師会研修センター認定薬剤師

日本薬局協励会会員

社八千代市薬剤師会副会長

特定非営利活動法人やちやく理事長

卒後教育講座の御案内

◎第130回

日時:平成22年11月11日(木) 18時~20時

演題:「いまさら聞けない感染症」

演者:日本大学薬学部 微生物学ユニット

教授 井口法男 先生

担当研究ユニット:機能形態学,薬品分子化学,

創薬化学部門付

◎第131回

日時:平成23年1月20日(木) 18時~20時 演題:「がんの痛みをいかに緩和するか

~モデル患者による処方設計と,

疑義照会のチェックポイント~|

演者: 沼津市立病院 副薬剤部長 真野 徹 先生 担当研究ユニット: 薬品物理化学, 有機化学, 法学

◎第132回

日時:平成23年3月10日(木) 18時~20時

演題:「お口のケアが全身をまもる

- 歯周病と全身疾患との関連性 --」

演者:日本大学歯学部 衛生学講座

教授 前野正夫 先生

担当研究ユニット:薬剤学,セルフメディケーション学,

健康・スポーツ科学

◎受講案内

会場:日本大学会館(千代田区九段南4-8-24)

最寄り駅:市ヶ谷駅

IR中央線下車 徒歩2分

東京メトロ有楽町線・南北線.

都営地下鉄新宿線下車 A2出口 徒歩1分

受講申込方法: 当日申込のみ (予約不要)

受付開始時間:17時30分より

参加資格:特になし(出身校等一切不問)

受講料等:1,000円

受講者には受講証と受講資料を差し上げます。

日本薬剤師研修センター研修シール(1単位)を交

付いたします。

問い合わせ先 日本大学薬学部庶務課 Phone 047-465-2111

ホームページのIDについて

日本大学薬学部校友会ホームページの「求人・求職のコーナー」・「運営委員会資料」を見るのにはIDとパスワードが必要です。IDは宛名の下にある正会員番号の下6桁(半角)、パスワードは氏名(全角カタカナ)になります。ID・パスワードは毎年10月の末に一括更新しております。本年3月に卒業された方は、10月までは学生時のID・正会員のIDどちらでも見れますが、それ以降は正会員のIDをお使いください。氏名の変更をお届けいただいた方は、10月までは旧氏名となります。

澤村良二先生を偲んで

1期卒・監事 小山 隆



まだ2月、新しい年を迎えて、 気持ちをあらたに新しい年に向 けて正月気分の消えやらぬ平成 22年2月24日(水)日本大学名 誉教授、元薬学部長澤村良二先 生には心不全により急逝され84 歳の生涯を閉じられました。

先生は昭和29年に設置間もない日本大学工学部薬学科(現薬

学部) に奉職され41年間の長きにわたり教鞭をとられました。

思い起こせば先生に初めてお目にかかり授業を受けたのは、3年生の栄養化学(現在の生化学)でした。先生自ら原稿を書かれて講義に使われた「炭水化物化学」沢村良二著(1958)で講義されました。汗を拭きながら懸命に講義されるのをノートにとり、追いついて行くのが精一杯で大変だったのを思い出します。

血気盛りの先生は教育・研究に精力的に携わり、学外の薬学会、薬剤師会の委員会にも出席されて環境衛生分野の委員、委員長を務められ衛生・公衆衛生の分野、学校保健の分野で活躍されました。当初から水質に関する委員会に参加されておられ、水の消毒、飲料水は言うに及ばず特に学校プールの塩素消毒に始まったように思います。生命の維持に欠くことの出来ない水に関する研究はライフワークとして終生続けられました。

先生と私の二人のころ、昭和30年代中頃から数年にわたり日本薬学会衛生化学調査委員会の研究・調査依頼を受けて、関東近県の海水浴場の環境調査を夏季休暇に、衛生研究会の学生さんが中心となり卒業研究生も参加して、外房の海水浴場の環境・水質の調査を行いました。合宿所は安房天津の永山芳男氏(第三代日本学校薬剤師会会長)の別荘をお借りして、自炊をしながら実験をしました。細菌検査には特注の組み立て式孵らん器を持ち込んでおこない、1,000本もの乳糖ブイヨン培地、シャーレ500枚を人海戦術で電車運搬しました。思い出せばよくもやったと良き思い出です。澤村先生の若かりし頃の公衆衛生に貢献された業績のひとつです。現在の衛生試験法の環境試験法、水質試験法の水泳場水の試験法の基礎を日大薬学が担ったことを誇りに思っています。

卒業研究また研究会の指導にあたっては厳しく指導し、 理解するまで丁寧に優しく教えを受けました。ときには、 「無駄な考えは休んでいるのと同じだ」との叱声を受けた こともありました。 教育研究を離れれば率先して学生さんの中にとけこんで、捻りはちまきで焼き鳥台の焼き方にまわって、皆さんにサービスすることもある気さくなかたで、教職員、学生を問わず尊敬され愛され慕われた先生でした。

薬学科は所属が工学部、理工学部、薬学部にと変遷、 発展してまいりました。日大薬学のために心血を注ぎ基 礎固めから、軌道に乗せることに貢献されたお一人です。

衛生化学、公衆衛生学の教育に努め、学生教育と学術研究に専心され、後進の指導にも心をくだかれました。また日本薬学会の衛生化学調査委員会の委員長や公害防止管理者国家試験委員を務められ、昭和63年多年に亘る薬剤師職能向上のため献身的奉仕の功績により日本薬剤師会功労賞を授賞されました。

平成3年4月から薬学部長に就任され大学院薬学研究科を設置し、初代研究科長をつとめられました。平成4年には日本大学副総長に就任されて、理事、評議員を歴任するなど、薬学部のみならず日本大学の発展に尽力されました。平成7年3月定年退職され、名誉教授になられました。社会的には公衆衛生の向上、学校保健の普及に多大の貢献をされ、定年退職後も5年間にわたり日本学校薬剤師会会長務められました。平成16年春、永年に亘る薬学教育および研究ならびに社会活動への貢献が認められて、瑞宝中授章受章の栄に浴されました。

日大大好きの先生はお正月の箱根マラソンには熱の入れ方が高く毎年懸命に応援されているのですが、今年の第86回箱根駅伝大会もお酒をいただきながらテレビにむかって盛んに応援されておられ、結果は健闘虚しくシード権を逃すことになったことを、非常に悔しがっておられたとお聞きしました。先生は、もうすっかり日大人になっておられました。

若きころにはヴィオラを弾き、尺八はタバコを止めるきっかけにと始められたと伺っております。琴古流の免許を許されて、お弟子さんをとられる程の腕前でした。その音色が今でも耳に残っています。多くの趣味を持っておられた先生は、最近では三陸書房のウエブサイトマガジン〈オリーブ〉にエッセイを書かれています。異業種の人々の思いが伝わるエッセイです。ご覧になりたい方は、アーカイブズを開いてみてください。先生の豊かな幅広い人間性の一面が覗えるとおもいます。

いつまでもご健勝で、私たち教え子にまだまだご教導いただかなければならないことが沢山ありましたのに、このたびの訃報に接し残念でなりません。先生のご冥福を心からお祈りいたします。

「故澤村良二先生を偲ぶ会」のご案内はP25参照してください。

研究ユニットだより

分子細胞生物学ユニット (3号館1階311)

このユニット便りがお手許に届く頃には、酷暑の夏も 何とか終息し、穏やかな秋を満喫されていることと思い

今回のユニット便りではひとつ大きなニュースをお伝 えします。長年、私たちの研究ユニットで、研究に、そ して教育に携わってこられた草間國子先生が、平成22年 4月より安西先生の後任の生化学研究ユニットの教授と して転出されました。ベテランの草間先生を欠くことは、 分子細胞生物学ユニットにとっては大きな痛手ですが、 新しい研究教育環境の下で、先生の才能を生かして益々 ご活躍されることを祈っております。

このような事情で、現在、分子細胞生物学研究ユニッ トの教員は、平成20年4月に須田先生に代わって助教と して着任した広瀬大先生と、私 (小川) の二人になって しまいました。その広瀬先生も、今年6月から9月の初 めまで中期海外派遣研究員としてメキシコに出張、また、 12名配属されている5年生のうち8名が病院薬局実務実 習でそれぞれの実習施設に出向くという状態で、3ヶ月 の間、研究室には、この時期の実務実習に行かなかった 数名の卒研生と私だけが残るということになってしまい ました。淋しそうに感じられるかも知れませんが、本年 度の卒研生は、なかなかの元気者ぞろいで、実習先から メールを送ってくれるので(もっとも、これは学生諸君 の義務ですが)、私としては結構活気を感じながら毎日を 過ごしています。かく申す私も、この8月に英国エディ ンバラで学会があり、その後、1週間ほどスコットラン ドで採集、帰国後、ややあって四国に採集に出かけると いう、何か老いの焦りのような日々を過ごしております。 このデータがまとまったら、卒研生の皆様にご協力頂い たUmbelopsis ramannianaの仕事も集大成かと思っていま す。

多くの卒業生の方々にとっては、渡辺先生、須田先生 の退職、草間先生の転出と、長年慣れ親しんでこられた 先生方が研究室を去ることになり、一抹の寂しさを感じ られることと思います。けれど、部屋のメンバーが徐々 に移り変わっていくことは組織としての宿命、その中に あって縦のつながりを維持していくことはユニットを預 かる者の責任と考えています。来年には、ユニットの同 窓会を開きたく思っています。その節は、ご協力のほど よろしくお願いします。

また、元気な卒研生たちが卒業生のご来校を待っていま す。ご遠慮されずにお訪ねください。 (小川 記)

薬理学ユニット (3号館1階312)

桜薬会会員の皆様におかれましては益々御健勝のこと とお慶び申し上げます。薬理学ユニットの近況について お知らせ致します。

平成22年度は、伊藤芳久教授、石毛久美子准教授、小 菅の3名で教育・研究活動に励んでおります。昨年に引 き続き、木原哲郎博士、阪田泰子博士が研究員として在 籍しております。また、大学院博士後期課程2年の長田 暢弘君は「脳梗塞」を、宮岸寛子さんは「筋萎縮性側索 硬化症」を対象として、病態解明及び新規治療薬の開発 に向けて、日夜研究に励んでおります。さらに、本ユニッ トには10名(男性3名、女性7名)の5年生が所属し、 個別にあたえられたテーマで、研究を行い始めました。 5月11日には、5年生全員が各自の研究テーマと進捗状 況を報告する中間発表会を行いました(写真はその時の ものです)。PowerPointを使った発表や質疑応答など初め ての経験で、戸惑いや不安もあったかと思いますが、多 くのことを学べた一日になったかと思います。今年度は、 研究と実務実習を両立させる生活を送ることになります が、充実した時間を過ごしてもらいたいと思います。我々 スタッフも、一緒に研究を進められることを楽しみにし ております。

本年の3月は、3名が博士前期課程を修了いたしまし た。3名はお互いに切磋琢磨しながら多くの研究成果を 上げ、3月に行われた日本薬理学会年会(野間礼さん)、 日本薬学会年会(稲場佑生子さん、小口紗祐梨さん)で 発表することができました。卒業後も、校友会諸兄姉の お世話になることがあると思いますが、ご指導の程よろ しく御願い申し上げます。

本年度の卒業研究旅行は、5年生の企画により、8月 30日から31日に水上温泉に行ってきました。初日は、赤 城高原でソーセージ作りを体験した後、バーベキューを 楽しみました。その後、「東洋のナイアガラ」とも呼ばれ る吹割の滝の見学を行いました。夜は恒例の懇親会で、 教員、大学院生、卒業研究生を問わず、夜遅くまで大い に盛り上がり親睦を深めました。翌日には、夜野びーど ろパークで各自オリジナルのグラスを作成しました。ま た、お昼にはそば打ちを体験し、各自で打ったそばを食 べました。幹事の綿密な準備のおかげで楽しい時間を過 ごすことができました。自分たちで作ったグラスを使っ て、親睦を深める機会を持つことを今から楽しみにして います。



実務実習も始まり、今で以上に校友会先輩諸氏のお力添えをお願いする機会が増しておりますが、会員の皆様方には今後とも厳しくも温かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。最後になりましたが、会員皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(小菅 記)

微生物学ユニット (3号館1階314)

気持ちのよい秋晴れが続いておりますが、桜薬会会員 の皆さまにおかれましては益々ご活躍のこととお慶び申 し上げます。当研究ユニットの近況をお知らせいたしま す。

井口先生を始めとして、小林弘子先生、板垣先生、私 元吉の4名で、変わらず研究・教育に励んでおります。 この三月に博士前期課程を修了した鈴木祐介君と濱野由 宜子さんは、二人とも病院薬剤師一年生として社会人の 仲間入りをしました。学生生活とのギャップに戸惑いを 感じつつも、努力を惜しまずに頑張っていることと思い ます。

さて今年度ですが、六年制の一期生である16名の卒研 生が共用試験(CBT、OSCE)を無事に突破し配属されて おります。四月より約一ヶ月間はセミナー形式の勉強会 を行いました。最初は不慣れで要領を得なかった発表も 回を重ねるごとに上達していき、教員一同ただ感心する ばかりでした。五月中頃からは1期の実務実習が開始され、 医療現場の緊張感を実感しながら日々を過ごし、長いよ うに思えた11週間という実習期間があっという間だった と感じるほどに充実した毎日だったようです。1期に実 務実習がない学生も大学での研究や演習に取り組み、忙 しい毎日を過ごしておりました。前期が終了して間もな くの八月5、6日には石和温泉、河口湖方面へ卒研旅行 に行って参りました。予想外の交通渋滞や酷暑により予 定変更を余儀なくされましたが、旅行係の的確な判断に より参加したみんなが楽しかったと思える二日間となり ました。そんなひと時もつかの間で、九月の2週目からは 2期の実務実習が始まっており、緩めた気持ちを引き締め 直して臨んでいることでしょう。

薬学教育が六年制に移行し、大学生活もいろいろと変化を遂げております。特にOSCEや実務実習においては現場でご活躍の諸先輩方のお力添えを頂くことになりますが、今後ともよろしくご指導下さいますようお願い致し



ます。最後になりましたが、会員の皆さまのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。 (元吉 記)

機能形態学ユニット (3号館1階315)

桜薬会会員の皆様におかれましては各方面で御活躍のこととお慶び申し上げます。また、昨年度、大学院博士前期課程を修了した1名の大学院生及び2名の学部学生のそれぞれの道での今後のご活躍を期待しております。

機能形態学ユニットの近況をお知らせ致します。平成22年度の本ユニットは教員4名(草間教授、木澤准教授、齋藤助教、益子)に博士後期課程1年生1名、博士前期課程2年生2名の大学院生を加え、教育・研究活動に日夜励んでいます。また、今年度は14名(実験組10名、演習組4名)の個性溢れる5年生が配属されました。彼らは、OSCEやCBTをクリアして研究室に配属になった6年制の最初の学生達です。

薬学6年制教育も5年目を迎え、今年度から病院と薬局を合わせて、5ヵ月の実務実習が始まりました。当研究室の学生達は第一期(5月~7月)に5名が病院実習、4名が薬局実習、残りの5名が研究室で卒業研究をおこないました。病院や薬局の指導薬剤師の先生から送られてくる週報によると頑張って実習に取り組んだようですし、大学で卒業研究をおこなった学生も早々に研究室に慣れ、頑張って実験をしていました。さらに、早くも来年度の新5年生(実験組10名、演習組6名)の配属が決まりました。現在の5年生も来年前期に研究室で卒業論文作成を行うので、二学年が研究室に所属することになります。スペースの確保がちょっと心配ですねぇ…

今年の研究室行事は既に2回の研究室懇親会が開催され、8月30日、31日で箱根に1泊の研究室旅行に行く予定になっています。バーベキュー、そば打ち体験、カラオケ(箱根でカラオケ??)などなど盛りだくさんの計画がなされているようです。実務実習などで所属学生がなかなか全員集まれないので、研究室旅行では卒研生同士また教員・院生と卒研生の親睦も十分深められればと思っています。幹事の皆さん宜しくお願いします。

6年制教育が始まり、薬学をとりまく環境も非常に厳しい状況ではありますが、校友諸兄姉におかれましては今後とも御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。最後になりましたが、会員の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。 (益子 記)



生化学ユニット (3号館2階321)

桜薬会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこ ととお慶び申し上げます。

当ユニットの近況をお知らせいたします。本年4月に、 分子細胞生物学の草間國子先生が教授として異動されて きました。よって現在は、小林准教授と大橋の3名で日々 教育や研究に励んでおります。大学院生は、3月に3名 が2年間の研究成果をまとめあげ、博士前期課程を修了 しました。各々の個性を生かしてそれぞれの道で活躍し ていると期待しております。今年度は、博士前期課程2 年2名に加え、新たに博士後期課程1名が加わり、日夜 研究に励んでおります。昨年度配属した卒研生(5年生) 7名は、OSCEとCBT両試験を無事にクリアし、5月から 第 Ⅰ 期の病院・薬局での実務実習を行いました。2.5ヶ月 間という実習期間で多くのことを学び、吸収してきたよ うです。9月からは、第Ⅱ期の実務実習が始まっていま す。充実した実習期間を過ごし、いい経験を積んできて ほしいと願っております。桜薬会会員の皆様にはお世話 になる機会が益々増えてまいりますが、ご指導ご鞭撻を 賜りますようよろしくお願いします。また、今年度新た に11名(実験組:7名、演習組:4名)の卒研生(4年生) 配属が決定しました。そこで月末に、4年生との顔合わ せも兼ねた卒研旅行として、サッポロボール千葉工場見 学プラス α を計画しているようです。実習や研究、OSCE やCBT試験に向けてリフレッシュできればなと思います。 (写真は昨年度のコンパのもの)

末筆ながら、会員皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈 (大橋 記)



衛生化学ユニット (3号館2階324)

桜薬会会員の皆様方におかれましては、ますますご健 勝のこととお喜びも申しあげます。まずご報告すべきこ として衛生化学研究室時代から助手・助教として本研究 ユニットを支えてこられた渡辺雅紀先生が3月で退職な されました。分野は変われども今後も渡辺先生のご活躍 は変わりなく続くと期待しております。渡辺先生のご退 職をはじめとして今年度の衛生化学ユニットは大きくメ ンバーが入れ替わり、昨年度までとは異なった新たな雰 囲気で満ちあふれています。昨年度の主力メンバーであっ た大学院生は、それぞれ職を得て新しいステージへと旅 立っていきました。在籍する大学院生のうち博士課程の 中馬君(板橋病院)は、薬剤師業務ならびに研究に励む とともに、実務実習生の指導にも力を注いでいます。ま た修士課程の市橋君は毎晩遅くまで研究にいそしむとと もに研究室の潤滑油として後輩の面倒等を良く見ていま す。そのかいあって、今年度の衛生薬学フォーラムにお いて学会賞を受賞しました。この賞は、優れた衛生薬学 研究に贈られるもので、私立大学での受賞者は市橋君の みです。本研究ユニットではこれが4回目の受賞となり ますが、このことは衛生薬学研究において本研究ユニッ トが確固たる地位を築いている事を示しています。今後 この伝統を受けついでいく卒業研究生ですが、女性の割 合が高く、そのため以前の本研究ユニットとは大きく異 なり、どちらかと言えば「ゆったり」とした雰囲気の中 で研究室が動いています。しかしながらそれは決して「の んびり」という意味ではなく、それぞれが自分の力の中 で真摯に目の前の事象に取り組んでいます。特に実務実 習を経験した学生の成長は著しく、短期間でまさに「顔 つき」が変わりました。今後のさらなる成長が楽しみです。

このように新しい雰囲気の中での毎日ですが、さらに 10月からは卒業生である和田平君が助教として着任しま す。和田君は現在アメリカで活躍中ですが、そこで得た ものを良い形で本研究ユニットに加えてくれるものと期 待しています。現在は学生数も少ないですが、その分連 帯感は強く、6年制の研究ユニットとしては良いスター トがきれたと思います。形や雰囲気は変われども、研究 室はいつでも卒業生が帰って来れる場所であると思って います。何かの折には是非お気軽にお立ち寄りください。 また今後も卒業生の皆様方には実務実習や就職などを通 して大変お世話になるかと思いますが、変わらぬご支援 のほどよろしくお願いいたします。



環境衛生学ユニット (3号館2階325)

5年卒業研究生12名のうち、10名は病院薬剤部や保険薬 局で毎日緊張しながら実務実習の指導を受けており、9 月から実務実習が開始する2名は、毎日卒業研究を行っ ております。したがって、現在、極めて静かな研究室の 様子を想像していただけるかと思います。博士課程後期 3年の西山耕太郎さん、博士課程後期(社会人コース) 3年の浦野敦さん(東邦大学佐倉医療センター薬剤部勤 務) は最終学年のため、毎日研究に没頭しております。

環境衛生学ユニットでの研究テーマは①ヒ素発癌機構 の解明、②クロラミンの生体内生成と炎症・発癌との関 連性、③バイオフィルムの殺菌・除去の3つを基本とし て研究を行っております。バイオフィルム研究は立川先 生が中心となって研究を進めておりますが、昨年国際誌 に発表した論文、[Mariko Tachikawa, Kenzo Yamanaka, Katsuhiko Nakamura (2009) Studies on the Disinfection and Removal of Biofilms by Ozone Water Using an Artificial Microbial Biofilm System. Ozone Science & Engineering, vol. 31(1), 3-9.] が高く評価され、NPO法 人 日本オゾン協会より論文賞を受賞しました。これも 立川先生のこれまでの研究成果と今後の発展性が評価さ れたものであります。また、本年度は①「ヒ素発がんの 新規代謝的活性化機構の解明 - 硫黄転移酵素の関わる代 謝的活性化- (基盤研究 (C))」、②「ヒ素の化学形態別 摂取による発癌リスク評価 - 新規発癌機序を含めた学際 的アプローチ - (基盤研究 (B))」の二つの文科省科学 研究費補助金が採択されました。

日本大学も駿河台病院の建て替えを中心に駿河台地区の再開発、全学統一の入試制度への移行、教育の改善・充実のための第3者評価を求められており、薬学部は6年制への移行も加え大変な時期を迎えております。同窓生の皆様との更なる交流を図り、少しでも良い研究室環境を築きたいと思っております。研究室に是非お立ち寄り下さり、ご意見等を賜れれば幸いです。

皆様の益々のご健康とご発展を祈念しております。

(山中 記)

薬品分析ユニット (3号館3階331)

桜薬会会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。薬品分析学ユニットの近況についてお知らせ致します。

現在、ユニットのスタッフは、内倉和雄教授、四宮一総准教授と宮本葵助教の3人で、教育・研究に取り組んでおります。本年度は5年生10名(男性8名、女性2名)の卒業研究生が配属となりました。5月からは、6年制になって初めての病院・薬局実習がありました。11週という長期間の実習でしたが、全員無事に終了し、実際の医療現場を経験したことで一回り大きく成長して戻ってまいりました。8月7~8日には卒業研究旅行で軽井沢に出かけ、白糸の滝やタリアセン公園散策、夜の花火大会など互いに親睦を深める事が出来ました。写真は白糸の滝で撮影しました。また、9月からは4年生11名(男性8名、女性2名)の卒業研究性が新しく配属され、初めて2学年が同時に所属する大所帯になります。

大学院生は、博士後期課程(D)の野伏康仁君、北市裕子さん、小林直子さん、芝野ゆうさんに加え21年4月から博士前期課程(M)今井加奈さんの5人です。平成22年3月に野伏君が「ルテニウム錯体電解化学発光法を用いたフローシステムの開発に関する研究」というテーマでドクター論文をまとめ、博士後期課程を修了し、4月からは本学部のセルフメディケーション学ユニットの助教として採用されました。また、北市裕子さんが「環

境水における医薬品の動態に関する研究」でドクター論 文の提出も済み、10月に学位が授与される予定です。小林 さんはヒト体内医薬品濃度の測定法の開発、芝野さんは 医薬品代謝酵素阻害物質の検索法の開発と応用、今井さ んは新規電解化学発光物質の基礎検討と応用というテー マで研究に真摯に取り組んでおります。新知見も見出さ れ、22年3月に岡山で開催された日本薬学会第130年会で 研究成果を発表致しました。

最後になりましたが、会員皆様の益々のご健勝とご発展 を心よりお祈りいたします。 (宮本 記)



ゲノム創薬学ユニット (3号館4階343)

桜薬会会員の皆様におかれましてはますます御健勝の こととお慶び申し上げます。

お陰様で、卒業延期となっていた4年制の学生2名は、 両名とも昨年9月に無事卒業しましたことを、まずはご 報告いたします。

6年制もいよいよ5年目に入りました。昨年当研究ユニットに配属された卒業研究生2名は無事5年生に上がることができました。今年度から薬学実務実習が始まり、2名とも第Ⅰ期の5月中旬より7月末まで薬局で実務実習を受けて参りました。実習では諸先輩方には大変お世話になりました。実習から大学に戻ってきた学生からは、非常に充実した様子が伝わってきました。彼らは第Ⅱ期もしくは第Ⅲ期に今度は病院での実務実習でお世話になると思いますが、その節にはご指導のほどよろしくお願い致します。実務実習のない期間は、彼らには卒業研究に大いに励んでもらいます。

今年度は卒業研究生(4年生)が新たに1名配属されました。4年制の時には卒業延期者を除き配属された卒業研究生が重なることはありませんでしたが、6年制では4年生から配属されるため、今年度は2学年が同時に研究室に配属されています。4年生は、共用試験であるOSCEとCBTの合格に向けての準備が中心となるため、試験勉強に大変忙しい学年です。ですが、せっかく2学年が配属されたことから、お互い何らかの刺激をし合えないかと考えております。

末筆ではございますが、桜薬会会員の皆様のご健康と 益々のご活躍をお祈り申し上げますと共に、今後ともよ ろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

(小林 記)

病院薬学ユニット (5号館2階524)

夏もやっと終わり、過ごしやすい季節となりました。 桜薬会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ご しのこととお慶び申し上げます。平成17年度に開設され た病院薬学ユニットもお陰様を持ちまして6年目を迎え ることができました。当ユニットは、中村均教授と筆者(濃 沼政美:専任講師)の教員2名で運営しており、国民に 求められる薬剤師を育成するために日々、教育および研 究に力を尽くしております。現在、当ユニットに所属す る学生は修士課程2年生1名、卒業研究生(5年生)8 名の合計9名となっております。また7月には卒業研究 生(4年生)7名の配属も決まりました。

この8月には、教員・学生・卒業生の計11名で、ユニッ トの絆を深めるために銚子まで研究室旅行(写真)に行っ て参りました。

ユニットに所属する大学院生の研究テーマは、「統計的 手法を活用したクリニカルパスの作成方法」であり、医 療機関との共同研究として最終的な結果を示す段階にま でなりました。また、卒業研究生は、当ユニットの継続テー マである「病院薬剤師の職務満足度に関する研究」を中 心に、皆夏休みを返上し研究に勤しんでおりました。

ところで、9月4日~5日、本学校舎において、当ユ ニット中村均教授を大会会長に、医療の質と安全に対す る薬剤師の啓発を促すことを目的に、日本社会薬学会第 29年会(メインテーマ: 「医療の質と安全に貢献する社会 薬学」)を開催させていただきました。なお大会実行委員 長は、筆者(濃沼)が務めさせて頂きました。本年会は 6年制長期実務実習が始まったことで、当初発表者や参 加者が減少することが予想されましたが、演題数もほぼ 例年どおりと、お陰様で大盛況の内に閉会させていただ きました。これも皆様方の暖かいご支援があってこそと、 感謝しております。誠に有り難うございました。

5月より長期実務実習が始まり、実務に携わっておら れる諸先輩方には、今後も多くのお力添えを頂くことに なろうかと思われます。ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しく お願い致します。末筆となりましたが、桜薬会会員の皆 様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(濃沼 記)



薬剤師教育センター (5号館2階525)

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面でご活躍 のこととお慶び申し上げます。薬剤師教育センターの近 況をお知らせ致します。

現在、日髙慎二教授、専任講師の荒川基記の2名の教 員と、5年生の卒業研究生8名、社会人大学院博士前期 課程1名で頑張っております。卒業研究生は第1期生で す。昨年度、薬学共用試験に無事合格し、現在は長期実 務実習で先輩OB・OGの皆様をはじめ多くの諸先輩のご 指導の下、一生懸命取り組んでいることと思います。卒 業研究も今年2月より順次開始し、高血圧症をテーマに した臨床研究や医薬品の製剤評価など個々のテーマに 沿って行っています。また、研究だけでなく親睦を深め ることも熱心で、3月には斑尾高原スキー場に行ってま いりました。荒川が怪我のため入院することになりまし たが、多くの教職員や所属学生のサポートを受けながら 現在は大学に復帰しています。さらに8月には昇仙峡や 富士五湖周辺を中心に研究室旅行へ行ってまいりました。 幹事の用意周到な準備のおかげで様々なイベントと共に 大いに親睦が深められたと思います。活発な学生に支え られ、研究室は常に活気に満ちあふれています。また、 社会人大学院2年生の太田美鈴さんは、仕事との両立を図 りながら研究活動にも熱心に取り組んでいます。平成21 年度は、アセトアミノフェン含有一般用医薬品の物理薬 剤学的安定性に関する研究成果を日本医療薬学会(長崎) および日本薬学会 (岡山) にて報告しました。まとめの 年でもあり益々の飛躍を期待しています。

教育に関しては、主に実務実習事前学習に携わってお り、新しく設置されました専用の実習室も活用しながら 実習を行っています。昨年度は初めての薬学共用試験が 実施されました。諸先輩の厳しい眼差しに見守られなが ら課題を行うことで、学生も医療現場の厳しさと長期実 務実習への実感が沸いてきたと思います。私たち教員は 今後も毎年薬学共用試験に全員が無事合格できるよう実 務事前実習で、しっかりと知識・技能・態度を教えてい きたいと思っています。先輩OB・OGの皆様におかれま しては、今年度、初めての長期実務実習生として、学生 が病院・薬局へと伺っていると思いますが、ご指導・ご 鞭撻の程、よろしくお願いします。 (荒川 記)



セルフメディケーション学ユニット (6号館2階626)

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面でご活躍 のこととお喜び申し上げます。早速ですがセルフメディ ケーション学ユニットの近況についてお知らせ致します。

今年度の当ユニットは、安川憲教授、4月から助教として着任しました野伏の2名で教育・研究活動に日夜取り組んでおります。私野伏は本学薬学部を卒業後、本学大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程を修了しました。現在は今までの知識を生かし、生活習慣病を予防する天然薬物成分の探索を行っています。社会人コース博士後期課程2名(劉、針ヶ谷)及び博士前期課程2名(岡本、津田)が日夜研究に励んでおります。6年制薬学部の初めての5年生4名(男子2名・女子2名)は、実務実習を行う一方、実習のない期間は卒業研究に取り組んでいます。また、7月には卒研生7名(男子3名・女子4名)が新たに配属され、共用試験(OSCE・CBT)の合格を目指して頑張っています。

研究面では、6月中旬、アマゾンフードのサンパウロ 支局より岡崎祐三氏ご夫妻が来校され、各自が取り組ん でいる研究テーマについてプレゼンテーションを行い、 質問にも的確に回答していました。また、10月4.5日に 開催された第15回日本フードファクター学会おいて岡本 さんは、「HPLCを用いたブラジル産プロポリス中に含ま れるアルテピリンCの定量分析 |、津田さんは、「ブラジ ル産プロポリスのメタボリックシンドローム予防効果」 の演題で発表を行いました。7月31日、8月20日のオー プンキャンパスでは、当ユニットで取り組んでいる研究 の一つであるプロポリスについて高校生に説明を行いま した。8月下旬には那須塩原にて1泊2日の研究室旅行 に行ってきました。1日目は那須サファリパークに行き、 放し飼いされた多くの動物を見学するだけでなく、小動 物とのふれあいを楽しみました。夜は懇親会で、夜遅く まで大いに盛り上がり親睦を深めました。翌日は、蕎麦 打ち体験などを行い楽しい時間を過ごすことが出来まし た。これも幹事さんの綿密な計画があってのことです。

奇数月の第4土曜日の夜、千葉県生涯学習センターでサプリメント医療薬学研究会を開催していますので興味のある方は、是非ご参加下さい。詳細は、本学ホームページ当ユニットのページ(http://self-medication.pha. nihon-u.ac.jp/)をご覧下さい。

末筆ではございますが、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げると共に、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。 (野伏 記)

薬事管理学ユニット (5号館3階535)

桜薬会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝 にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

薬事管理学ユニットでは、4年間にわたり研究室に多大なご貢献をいただきました詫間浩樹先生が異動となり、4月より後任として、わたくし小野寺祐加がご縁をいただき助教に就任いたしました。まだまだ未熟者ですが微

力ながら皆様のお役にたてましたら幸いに存じます。

今年度は、大学院博士前期課程6名(うち社会人2名)、後期課程2名(すべて社会人)、卒業研究生23名(4年生、5年生)、研究員2名、研究生3名が在籍しております。4月には新年度顔合わせ会が開催され、学生は社会人院生の皆様と交流し大きな刺激を受けたようでした。5~6月には医療薬学社会人コースの当ユニットが担当する社会薬学特論、薬剤疫学・薬剤経済学特論が開講され、多くの著名な先生方にご講義いただきました。研究面では、大学院生、卒業研究生ともに薬剤経済分析を始めとした多彩なテーマに熱心に取り組んでおります。

7月31日のオープンキャンパスでは、在校生へのインタビューをまとめた「先輩に聞きました~薬学部はこんなところ~」というビデオの上映を行い、多数の高校生・父母の皆様にご覧いただきました。これから入学を考えている皆様に大いに興味を持っていただけたように思います。

今年の研究室も男性が多く、スポーツにも力を入れております。5月の薬学部スポーツ大会ではソフトボールに参加し、7月には4年生の歓迎会を兼ねてボーリング大会を開催し、大いに腕を競い合いました。また、8月初旬には九十九里浜にて1泊2日の研究室旅行を開催しました。バーベキューや花火などで盛り上がり、研究室メンバー同士が親睦を深め楽しい時間を過ごすことができました。これも5年生の旅行係の献身的活躍があってのことです。

これからも社会の現場で活躍されておられる皆様からのご意見を賜り、私どもも研鑽し現場へフィードバックし実践してまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、会員の皆様方の今後の益々の ご健康とご活躍をお祈り申し上げます。 (小野寺 記)

健康・スポーツ科学ユニット (6号館1階616)

今夏の猛暑で疲れ気味の身体が秋に入って大変過ごし やすくなり、身体も回復の兆しがみられてようやく活力 ある日々を迎えられそうです。

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面において 益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

健康・スポーツ科学ユニットの近況についてお知らせ 致します。

本年春に、助教の松尾(西川)絵梨子先生が目出度く女児(心遥さん)を出産し、来春まで育児休暇中です。したがいまして日々の教育や研究は私こと松原が老体に鞭打ってなんとか切り盛りしながら過ごさせて頂いております。改めて松尾先生の平素の働きぶりが身に沁みます。5年生の卒研生2名(男子1名、女子1名)は実務実習のⅠ期(5月17日~7月30日)で薬局に、Ⅱ期(9月6日~11月19日)は病院での実習です。実習前には研究室で卒業研究に一生懸命取り組み賑やかな毎日でしたが、実習中の研究室は大変静かで寂しささえ感じます。学生さんは実習先では学校とは勝手が大分違って毎日が

緊張の連続のようです。実習が終えていろいろな経験を 積み一回り大きくなって戻ってきて頂きたいと願ってお ります。また、4年生の卒業研究生の着手も決まりました。 男1名、女2名の計3名が当ユニットの配属となりました。 7月末に研究室の顔合わせを行いました。4年生は、 幼小から現在まで本格的なスポーツに取り組んでいます スポーツ・マン(ウーマン)です。卒業研究の内容や卒 業後の進路等についての話を聞き自分自身の将来をしっ かりと考えていることが確認できました。5年生と同様、 4年生の将来もまた楽しみです。学校行事が重なり卒研 旅行には行っておりませんが、実務実習の終了後に行い たいと思います。

秋は、当ユニット関連の学会が目白押しです。現在、授業と学会の準備で多忙な日々を送っておりますが、今年度も秋の桜薬祭には例年通り研究室の同窓会<10月30日(土)15時>を開催したいと思います。多くの同窓生皆様のご出席を頂戴し卒研生へのご指導・御助言を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員皆様のご健康とご活躍をお 祈り申し上げます。 (松原 記)

臨床医学ユニット

(6号館4階645)

記録的な酷暑だった夏も過ぎ、会員の皆様におかれましては虫の声も心地よい秋の夜長をお過ごしのことと存じます。

臨床医学ユニットは、昨年に引き続き 鈴木 孝 教授、小野 真一 准教授、浅見 覚 助教、田畑 恵市 助教の4名のスタッフで教育・研究を担当しております。研究室には博士後期課程の社会人大学院生が3名、博士前期課程の大学院生が1名と、5年生16名、研究員1名、研究生3名に加え、新たに4年生が16名配属され、総勢40名を超える研究室創設以来の大所帯となりました。5年生は実務実習も始まり、「病院実習」、「薬局実習」、「卒業研究」をローテーションで行っております。病院実習や薬局実習では新たな教育プログラムに基づいた実践指導が開始され、多くの刺激を受けている様子が学生から伝わって

きます。また、卒業研究についても、それぞれが使命と 責任を感じながら精力的に打ち込んでおります。

卒業研究旅行は、8月6日に東京台場にて「お台場合衆国」見学の後、近隣の潮風公園にてバーベキューパーティーを行いました。真夏の太陽が照りつける暑い一日でしたが、東京湾からの潮風に吹かれながら、ビールを片手に肉や焼きそばをついばむ心地よい夕暮れを共に過ごすことができました。

今年の桜薬祭は10月30日~31日に開催されます。6年制が導入された変わりゆく薬学部と、習志野台の片隅に佇む今も変わらない薬学部との両方を味わいにお越し頂けたら幸いに存じます。溢れんばかりの情熱を学術や芸術にぶつける現役大学生の熱い息遣いや、これに負けじとソフトボールを追いかける教員たちの荒い息遣いが聞こえてくるかも知れません。臨床医学ユニットは春のスポーツ大会のソフトボール競技で、初戦は突破したものの2試合目で惜敗し、鈴木教授の胴上げを行うには至りませんでした。次の機会には(桜薬祭で大会が開催され、臨床医学ユニットでチームを結成して出場することができれば)胴上げをと虎視眈眈と狙いを定めております。

最後になりましたが、会員の皆様にはすでに実務実習ます。皆様方の力添えなくしては、6年制教育は成立致しません。今後ともご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

(田畑 記)





おめでとうございます

第25期(1980年卒・薬剤)**高橋市吉様** が長年の協会理事としての功績により平成22年度 兵庫県薬事協会長表彰と兵庫県薬事功労表彰の2つを受章されました。

第37期(1992年卒・薬剤)鈴木豊史様が「血液脳関門における疼痛関連治療薬の輸送特性の解明と脳への薬物送達技術」に関する研究業績により日本薬学会関東支部奨励賞を受賞されました。

心よりお祝い申し上げます。益々のご活躍を期待しております。

事務局からのお願い

学会等で多くの会員の方々がご活躍のことと存じます。しかし、実際にはなかなか皆様のご活躍を知ることが出来ません。今後なるべく本会誌でご紹介できるものはご紹介して行きたいと考えております。何か御座いましたら桜薬会までお知らせ下さい。

ユニット同窓会

第1回放射化学・臨床薬剤学・臨床薬物動態学合同同窓会 報告

平成22年4月11日(日)に放射化学・臨床薬剤学・臨床薬物動態学合同同窓会をホテルメトロポリタン・エドモントにて開催致しました。当日は52名のご参加を賜り、開会にあたっては、合同同窓会の開催にご尽力された菅野圭介氏より、これまでの同窓会活動や合同同窓会開催の経緯について説明がありました。放射化学・臨床薬剤学研究室で教授をされた青木正忠先生、ならびに臨床薬物動態学ユニット教授の松本宜明先生よりご挨拶をいただき、卒業生の久保山昇氏による乾杯の御発声で開会されました。宴会は終始なごやかなムードで進み、小山先生、青山によるスピーチ、卒業生の近況報告、ジャンケン・ゲーム、網中幸男氏による日大節の披露と大いに盛り上がりました。出席された卒業生は遠方より駆けつけて頂いた方も多く、中にはかわいいお子様を連れてご参加い

ただいた方もいらっしゃいました。本会の開催に伴い放射化学・臨床薬剤学・臨床薬物動態学合同同窓会も発足し、青木正忠先生は放射化学・臨床薬剤学・臨床薬物動態学合同同窓会名誉会長、松本宜明先生は放射化学・臨床薬剤学・臨床薬物動態学合同同窓会会長をお引き受けて準定をうけた深澤亜季子さんより合同同窓会開催のお祝いの言葉を頂き、皆様の益々のご発展とご健康を願い、また元気で再会できることを確認し、会はお開きとなりました。最後になりましたが、本同窓会開催にあたりご尽力下さり、司会・進行もつとめて頂いた菅野圭介氏、ならびに当日の運営を引き受けて頂いた卒業生のみなさまに感謝申し上げます。 (青山 記)



物故者	物故者名簿:心より御冥福をお祈り申し上げます。				
正 2 4 4 5 7 7 8 期 期 期 期 期 期	及鈴矢渡	久 晚 重和恒庄	(09. 10. 18) (10. 06. 11) (10. 02. 11) (10. 05.) (10. 07. 21)	13期 清水(白井)新二 (10.05.05) 32期 岸 哲 也 (10.04.13) 34期 鈴 木 里 絵 (09.09.07) 特別会員	
10期	立 石	博 毅	(09. 08. 24)	連絡いただければ、会より弔電を打たせていただきます。	

桜の木の下で

第5期同期会開催報告(卒業後50周年記念)



5期生の同期会は、薬学科卒業50周年を記念して、これからは、なかなか友と会う機会が少なくなるだろうことも考えて、今回を一区切りと考え、平成22年6月18日お茶の水2号館前の山の手ホテルで開催、恩師の杉井、小山の諸先生方、薬学部校友会の山内会長をお迎えし、開催された。

当日は、記念写真でもお分かりのように、50名と近年に増して沢山の方々そして北九州、香川、広島など遠方からまた足腰の痛みを我慢しての参加していただき大盛会でした。会はまずこの会に出席を望まれておられた、澤村良二先生、及川暁生さんを含め物故者の方々のご冥福

をお祈りした後開宴された。出席者の最年少が72歳の同窓会のこと、恩師の先生方の近況の後、何十年ぶりの方もおり、一人づつマイクを持ち近況を述べた。

また、初めの話題は、健康状態の話でしたが、すぐに 学生時代の話題に花が咲き、全員、額のしわの数は70代 でも、心は2号館での、そしてお茶の水界隈での青春時 代に逆戻り、大いに花が咲きました。二次会は、同ホテル のロビーで話は尽きませんでした。

次回の再会を約束し、三々五々帰られた。なお、次回 開催については、ご意見ご希望がございましたら幹事ま でお知らせください。 (大日向、田中、長谷川)

第24回 桜神会開催



さる6月29日(火) 横浜国際ホテルにおいて恒例の第24回桜神会を開催いたしました。

当会は、神奈川県内の医療機関に勤務する病院薬剤部(局・科)長に加え、調剤薬局に勤務する薬局長、若手の薬剤師、製薬会社の医薬品情報担当者(MR)と様々な職種の方々に参加していただいております。日本中がサッカーW杯で盛り上がるなか、今回も新たに多くの先生方が参加され、総勢54名と盛大で熱気のある会となりました。

大学からは校友会会長の山内盛先生にご出席賜ることができました。山内先生のご祝辞から始まり、澤地次雄 先生(帝京平成大学 薬学部)のご発声による乾杯に続き歓談となりました。

また、桜神会に先立ち開催された特別講演では、「本学 (日本大学 薬学部) における卒前実務実習の考え方と現 状~卒前実習でやるべきこと~」中村均先生(薬学実務 実習委員会 委員長)の演題を通し、薬剤師の本務であ る調剤を的確に実践することの重要性を再認識させられ ました。更に近年は専門薬剤師、チーム医療などがクロー ズアップされておりますが、薬剤師に一番求められてい るのは何か?その原点を考えさせられました。『調剤がで きる薬剤師』の養成は安心で安全な薬物療法の実践に繋 がり、その確固たる基盤の上に、専門薬剤師など新たな 業務展開があると思われます。特に若手の薬剤師の方々 にとっては、自分の業務を見つめ直す貴重な機会であっ たと思われます。

是非、神奈川県在勤、在住の先生方には今後も積極的なご参加をお願いいたしまして第24回桜神会のご報告とさせていただきます。 (岡添 進 記)

東桜会(第42回実務者研修会)報告



東桜会は、東京近郊に勤務する日本大学薬学科の卒業生を中心に発足し、病院・診療所・調剤薬局など異なった立場の薬剤師の相互理解と連携、知識向上を目的に、毎回、患者の立場にたった実務的な問題点をテーマにして意見を交換しています。

7月3日(土)午後4時から茗荷谷駅前エーザイ別館にて会員30名が集まり、第42回実務者研修会を開催しました。講演1は「緩和医療への参加と問題点」という演題で慶應義塾大学病院薬剤部主任金子健先生(34期)が、大学病院の緩和ケアチームの活動を紹介し、その中での薬剤師業務と今後の課題を発表しました。講演2は「持参薬の運用と問題点」を演題に稲城市立病院薬剤部課長補佐田口裕之先生(31期)が、DPC(診断群分類)による包括支払い制度の導入により、入院患者の持参薬(他院で処方された薬)を病院で利用した方が有利となることから、この持参薬管理に携わる薬剤師がどのように対処しているかを述べました。同じような問題を抱える他の

病院薬剤師より質問や意見がありました。講演3は「ジェネリック薬と患者への対応」を演目にクラフト薬局事業2部課長岩根好明先生が、調剤薬局でどのようにジェネリック薬を選定し、患者へ説明した上でジェネリック薬へ変更しているのか具定例を挙げて説明されました。研修会終了後、茗荷谷駅前のレストランで懇親会を開き、校友会から山内盛先生のご出席を賜り、お酒も入り和やかに話しが弾みました。

薬剤師業務は多様化し、想定していない問題が発生することも少なくありません。同じような業務をしている仲間や異なった立場で働く人への相談は、問題解決の糸口になると思います。一人で問題を抱えて悩まず、薬剤師仲間の絆を大切にしている東桜会で一緒に考えませんか。当会は年2回開催、次回は12月の第1土曜日を予定していますので、どうぞ気軽にご参加ください。

お問合せは、稲城市立病院薬剤部田口裕之先生 (<u>taguchi.</u> hiroyuki@gmail.com) まで。 (31期横尾朋枝)

8期の会開催報告



平成22年7月11日 (日)13時から飯田橋のホテルメトロポリタンエドモントで山内校友会会長をお招きして2年ぶりに8期の会が開催されました。

8期生にとって今年は古希を迎える年でもあるのを記念しての開催でした。

河南雅章代表幹事をはじめとして42名の同窓生が一同 に集まり、記念撮影のあと芝(佐野)紀代子さんの司会 で会が始まりました。

会に先立ちこの2年間に逝去された4名の方への黙祷 を行いました。

開会の辞のあと山内校友会会長から、校友会館が近々オープンすること、薬学が6年制になってからの状況、地方からの受験生が激減で首都圏大学になってしまったことなど母校の近況についてのご報告がありました。

北からは秋田の田原(平野井)和子さん、新潟からは

宮正伻君、清水夫佐子さん、町田芙美さんと3名全員、 名古屋から清水邦彦君、神戸から安保(廣田)万里子さん、 遠く四国からは米本(遠藤)富美代さん、山崎純弘君ら が駆けつけてくれました。

懇親会の合間では水村順子さんが手品を披露されおおいに盛り上がりました。

芝さんの司会で2時間という時間はあっという間に過ぎてしまい、話し足りない連中がそのまま同ホテルの2次会場に場所をかえ話しに花が咲いていました。

開催準備として5回の幹事会を開催しましたが、今回 も文京学院大学大学院で現役の教授をされている芝さん に勤務先の施設の利用など便宜を図っていただき本当に 助かりました。

次回は代表幹事として渡辺寛美君が、副幹事長として 平井紀一君が選出され、2年後に開催する予定です。

26期(52入学~56卒業) 同窓会の報告

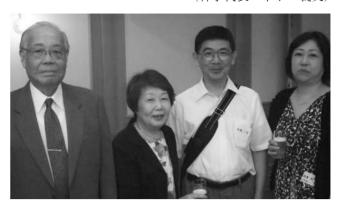
平成22年7月11日(日)お茶の水ガーデンパレスにて4名の先生方に(小山隆・渡辺和子・牧村瑞恵・北中進)お越し頂いて、2度目の同窓会を開催致しました。第1回(6年前)が115名と盛大な会としてスタートした26期の幹事団として、今回・次回に向けて参集人数を減らさずむしろ増員になるように、成長させていきたいという決意のもと、前回と違う設営にて企画致しました。

- ○遠方者の負担軽減の為に、出席者の交通費に準じて会費を4段階に設定しました
- ○集合写真なしで、カメラ係にて少人数のカットにて数 多くの写真をCDにして欠席者も含む全員に送付する 上記の2件の承認を出席者に頂いてから、本会の乾杯

に入りました。出欠に関係なく同期の全ての仲間に、今回の様子(楽しさ)を伝えることに、事後報告でも賛同頂けたことで、我ら26期が卒後はじめて、ひとつのチームになった気が致しました。懐かしさいっぱい・大さわぎの子供たちの前回とは一味違う・アラ4を卒業・生活も多少落ち着き・社会では現役バリバリ・子育て最終段階の私共26期の第2回同窓会は、初参加6名を含め総勢97名でスタートしました。

みんなが笑顔で、自分たちの子供・今の仕事などなど 熱気あふれる雰囲気のなかで、ハザードひとつない雑談 会となり(娘が銀座でトップホステスしているとか 親 からは想像できません) 2 時間半が過ぎて行きました。 都合により二次会より参加の2名と山内会長が合流して、お茶の水駅近の山葵にて60名近くの人数で、誰が音頭を取るわけでなく、ミニコンパ開催となりました。出席の返事もなく暇だから来たという夫婦(加藤)・124回ハイチーズで一次会が終わったというカメラ係のほやき(幹事の一人)・集合時間の1時間半前から来ていた暇人(佐藤)・勘違いして大幅に遅れてきたキャリアウーマン(武居)学生時代にもよくあった出来事が同期だから理解できる又許される友達の輪なのかもしれません。幹事も引き続き同じメンバーで務めることになりましたが、もっと楽しく・もっと大勢・もっとスムーズにと考えていく所存です。26期初の同窓会開催に至る際に「お前がやれ」の喝を頂いた山内会長にチームを代表して「先生ありが

とう」生徒として当たり前の一言で結ばして頂きます。 (幹事代表 木下 義文)



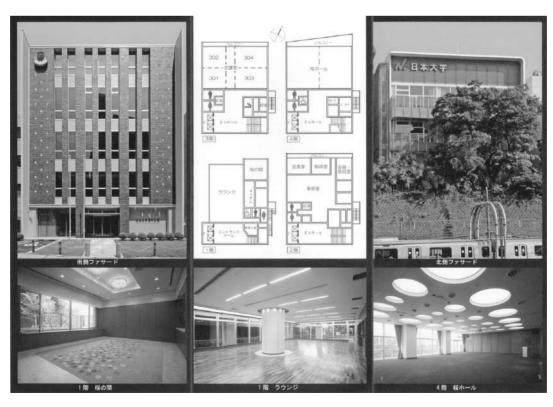
日本大学・日本大学校友会ニュース

「桜門会館」完成す

昨年度より建設中の校友会館は名称も「桜門会館」と 決められ、6月30日竣工いたしました。場所はJR市ヶ 谷駅から100mの至近距離にあり、電車からも見える4階 建ての建物です。1階にはラウンジ、2階は事務室、3 階は会議室、4階はパーティーが出来るホールがありま す。この桜門会館の使用には申込が重複することも考え られますので①校友会本部の諸式・諸会議及び諸行事、 ②校友会支部等の行事、③日本大学の諸会議及び諸行事、 ④日本大学の各部科校の行事、⑤日本大学の付属機関が 主催する行事、⑥学会及び学術講演会等の行事、⑦その 他校友会本部事務局が適当と認めた行事の順位で使用許 可を得ることが出来ます。同期会、研究室の会合にも使用することが出来ますので、使用に際しては本会事務局に相談して下さい。

会議室の収容人員及び使用料(校友使用限定料金)

	使用区分	収容人員			午前・午後・夜間
	桜ホール 立食 200名				10,000円
4	会議室A	立食 100名			5,000円
	会議室B	立食	£ 1(5,000円	
	大会議室	教室 156席			10,000円
3 階	301 · 302	方形18席 教室18席	合併	方形36席 教室48席	2,000円 4,000円(合併使用)
	303 · 304	方形24席 教室42席	合併	方形72席 教室96席	3,000円 6,000円(合併使用)



日本大学校友会役員総会開かれる

7月1日午後、東京ドームホテルに於いて平成22年度日本大学校友会役員総会が開かれ、本会からは会長、渡邉・内倉両副会長が出席した。平成22年度正会員事業計画案としては①校友子女入試の推進、②全国校友大会の開催、③スポーツの振興と推進、④その他必要とする事業が、準会員(学生会員)事業計画案としては①スポーツ優勝者表彰、②スポーツに対する奨励金交付、③全学文化事業(NU祭)支援、④診療費助成、⑤校友会独自の奨学金、⑥校友子女入試の充実に伴う特別優待生制度の拡大、⑦その他必要とする事業などが上程されそれぞれが承認された。

2011年度入試に「N方式」を新設

日本大学法学部・経済学部・商学部の3学部では明年度 入試に「N方式」と名付けた新形式の入試を実施すること になりました。このシステムは日本大学教学戦略会議が中心になって検討されてきたもので、受験生にとっては複数学部の併願が可能となり、受験の負担を軽減させることを目的に確立された方策で、3学部が同一日程・同一問題で実施されます。

全国校友大会開催 参加歓迎!!!!

日本大学校友会では毎年、恒例行事として校友大会を開催しております。日本大学の卒業生であればどなたでも参加できます。日本大学 O B が一つ釜の仲間として交流を深めて頂くことを目的に開催しております。皆様のご参加をお待ちしております。参加ご希望の方は薬学部校友会事務局までお知らせ下さい。

日 時:平成22年11月15日(月)18時~

場 所:東京ドームホテル (JR水道橋下車)

会費:10,000円

薬学部ニュース

日本薬学会

第130年会日本薬学会が3月28日~30日に岡山市で開催されました。全部で3904題の発表が行われました。その中から注目される発表として講演ハイライト203題が学会により選定されましたが、今年は本学より次の3題が選ばれました。

「パーキンソン病および筋委縮性側索硬化症関連タンパク質によるTopoisomerase I の機能調節」

○中島隆良、南雲昭人、渡邊雅紀 「バイオフィルムの殺菌・除去でのオゾンと過酸化水素 の併用による相乗効果機序の検討」

○立川眞理子、加藤孝一、山中健三 「CHOP療法施行患者における発熱性好中球減少症の発 症に影響する因子探索」

○中嶋亮介、濃沼政美、中村均

(敬称略)

この他に、日本大学板橋病院の「救命救急センターにおける24時間常駐薬剤師の評価」〇藏内恭子、今井 徹、中 馬真幸、吉田善一、丹正勝久(敬称略)も選定されています。

開講式

平成21年度大学院薬学研究科・薬学部開講式が4月3日(金)薬学部にて行われました。新入生265名(学部261名、博士後期4名)を迎えました。式には校友会長山内 盛氏、慈恵会医科大学付属第三病院薬局長川井 龍美氏(19期)のご出席を賜りました。草間貞薬学部長の式辞に始まり、川井氏よりご来賓の祝辞が述べられました。新入生は心も新たに6年間の決意をしていました。

薬学共用試験結果

薬学共用試験結果を大学のホームページに公表しました。結果は以下の通りです。

	実施日程	受験 者数	合格 者数	合格基準
СВТ	本試験 平成22年1月9、10日 追再試験 平成22年2月23日	236	235	正答率60%以上
OSCE	本試験 平成21年12月20日 追再試験 平成22年2月21日	236	236	細目評価70%以上 概略評価5以上
共用試験		236	235	

同時に日本大学薬学部の「自己評価21」の自己評価書を 公表しました。これは薬学教育評価機構の下に行われたも のです。

実務実習

薬草教室

5月8日(土)に第10回薬草教室が開催されました。講師に武田薬品工業株式会社 京都植物園 園長 渡辺 斉氏をお迎えし、「雑穀の利用拡大と系統保存―生活習慣病を予

防する一」と題して、雑穀の現状と有用性をご講演いただきました。その後、薬用植物園への見学会が行われました。 当日は100名を越える近隣の薬草愛好家の方々が参加されました。

後援会役員会

5月15日(土)に昨年の総会により承認された後援会の総会に変わる平成22年度後援会役員会が開催されました。21年度事業報告、決算・監査報告、22年度事業計画、予算および役員選出などの議事が行われました。尚、クラス担任と父兄の個人面談会は後日実施されます。

スポーツ大会

5月23日(土)にスポーツ大会が開催されました。今年度もウォーキング、ターゲットゴルフ、ソフトボール、スリーオンスリー、ソフトバレー、テニス、バドミントン、フットサルの8種目が行われました。お隣の理工学部船橋校舎のスポーツホールをメイン会場とし、教職員、学生ともども体を動かし楽しみました。

公開講座

6月5日(土)に公開講座が開催されました。講師は本学健康・スポーツ科学ユニットの松原茂准教授が『運動と健やかな老い』と題して講演を行いました。普段の運動で心がけることやゴムを使った簡単なトレーニング法などが紹介されました。当日は早くから、大勢の方々が聴講に集まりました。また、同時に薬用植物園への見学会も開催され、訪れた方々は植物園の小村さんや生薬研究会の学生さんの説明を聞き、熱心にうなずいていました。

オープンキャンパス

7月30日(土)および8月20日(金)にオープンキャンパスが開催されました。学部長による全体説明会を皮切りに進学個別相談、体験実験(今年は病院薬学、薬剤師教育

センター、製剤を追加)、飯島洋教授と草間国子教授によるミニ講義、各研究ユニットによる研究室公開、在学生の引率によるキャンパスツアーなど盛りだくさんの内容で、 高校生や保護者の皆様に大変好評でした。

卒後教育講座

平成22年5月13日 (木)18:00~20:00

病院での実務実習(製剤,注射,混注業務,服薬指導を中 心に)とこれからの薬剤師業務

総合病院国保旭中央病院 薬剤部長 浅井 秀樹氏 平成22年7月8日 (木)18:00~20:00

チーム医療と薬剤師・(クリニカルパス最近の話題とと もに)

新潟大学医歯学総合病院 薬剤部 主任 小野田 学時氏 以上が実施されました。

平成23年度大学院薬学研究科 入試試験

博士後期課程(社会人)学生募集募集人数:若干名 受験資格:大学、研究所、病院、企業、薬局、その他本大 学院が認める機関に勤務をしており、入学後も原則として 在職のまま就学でき、かつ次のいずれかの条件を満たす者

- ①薬系、理系の修士の学位を有する者又は平成22年3月 取得見込みの者。
- ②薬系、理系の修士の学位を有する者と同等以上の学力 があると本大学院が認めた者で、かつ大学卒業後3 年以上勤務した経歴を入学時にもつ者。

出願期間・選考日・選考方法:

出願期間 平成23年2月14日(月)~2月21日(月)

選考日 平成23年2月23日(水)

選考方法 筆記試験(外国語(英語))口述試験

出願方法など問合せは教務課までTEL.047-465-8480

◎現行制度の博士後期課程の入学試験はこれが最後になります。どうしようかとお迷いの方には、受験することをお勧めします。まだ、6年制の大学院は、その全貌が見えてまいりません。

薬学部校友会(桜薬会)ホームページ求人情報募集

桜薬会ホームページは平成14年12月から公開され、「求人・求職」情報のページも多くの会員より情報をいただき今日まで運用してきました。ここで改めて紹介いたしますので、より多くの情報をいただき会員の求職希望を満たしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

一般に就職情報の紹介は厚生労働大臣の認可を得た者だけが行うことが出来る業務です。薬学部校友会では一般公開するのでなく会員限定で公開することを条件に船橋ハローワークの了承を得たことで校友会の活動の一貫としています。この業務は会員相互扶助を目的にしておりますので会員の求人情報を掲載し、会員の求職希望を満たすことを第一目的とします。ただし、あくまでも求人情報をお知らせする場であり、校友会は求人薬局との仲介は一切行いません。掲載される求人情報は3ヶ月で自動的に消去されます。

会員からの求人情報の掲載は無料です。求人申込書はホームページの「求人・求職」のページからダウンロードし、必要事項をご記入の上、事務局に郵送(あるいはFAX)してください。なお、「求人・求職」のページを閲覧(ログイン)するには、会員番号 I D が必要です。会員番号 I D は封筒宛名したにある会員番号の下 6 桁です。

ホームページアドレス; http://alumni.pha.nihon-u.ac.ip

メールアドレス; alumni@pha.nihon-u.ac.jp

薬学部校友会奨学金制度の設立と専用口座開設

平成20年通常総会で「現在の社会情勢を鑑みて奨学金の増額と共に多くの学生に給付することを検討して欲しい」と云う要望を受け事業委員会内にワーキンググループを設け検討を進め、第52号桜薬会会報にその経緯と具体案を掲載しました。

本年6月に行われました平成22年度通常総会で原案通り 承認され、校友会奨学金制度の立ち上げが決定されました。 8月には奨学金受け入れの専用口座を新たに開設し、校友 会会員でご賛同いただける多くの方々からの募金を受け入 れる口座が整いました。

薬学部六年制導入により学生の経済的負担は大きく、日本学生支援機構(旧日本育英会)の奨学金の利用だけでは十分な学生生活を営むことができず、「薬剤師になりたい」と云う夢を絶たれ、退学していった学生も多数いるのが現状であります。薬剤師を目指す我々の後輩たちが、安心しかつ充実した学生生活を送れますように、現在の奨学金制度に加えて、今度の奨学金制度を充実させ、一日も早く給付できますように努力していきたいと思います。

一方、6年制移行に伴い学生募集の定員増及び新設薬科

大学が乱立し、第1回卒業生を待たずに定員割れしている 大学もある状況です。各大学とも生き残りをかけ特徴ある 運営を目指ししのぎを削っておりますが、その中でも奨学 金制度は大きな柱になっております。

さらに、日本大学本部でも「桜樹奨学金」、「N. (エヌドット) 奨学金」といった新たな奨学金制度を平成23年度中に確立する準備を進めておりますが、全学部生が対象であり薬学部に手厚くと云うわけには参りません。

今後は薬学部校友会会員からの募金により運営されます ので、目的をご理解いただき募金にご協力いただきますよ うお願い申し上げます。

募金は下記口座にお願いいたします。 ロ 座:00120-5-318734 口座名:日本大学薬学部校友会奨学金

> 会 長 山内 盛 事業委員会委員長 岸田 邦雄

平成21年度薬学部校友会研究奨励金研究報告

薬品分子化学ユニット 三浦 基文

光学活性スルホキシドは1960年代初頭から現在に至るまで、不斉合成という概念が産声をあげた当初から今でも精力的に世界中の有機化学者が不斉合成のターゲットにしている化合物群である。中でもl-メントールと4-トリルスルフィン酸から合成されるl-メンチルスルフィネートを用いたジアステレオ選択的不斉反応は、光学活性スルホキシドを用いた不斉反応の中でも中核をなすものである。筆者もこの l-メンチルスルフィネートを基にして種々のキラルスルホキシドを合成し、新規なジアステレオ選択的な反応の開発を行ってきた。その中でもキラルスルホキシドを保いた不斉反応の研究を中心に研究を行ったので報告する。

1, α - スルフィニルエノンのジアステレオ選択的不斉還元の開発

光学活性なl-メンチルスルフィネートを出発原料とし、これにアルキンを付加させ得られた1-アルキニルスルホキシドをLAH(1ithium aluminum hydride) で還元し、光学活性なビニル型(E)-1-アルケニルスルホキシドを合成した。このスルホキシドに対してアルデヒドを付加させ、ジアステレオ混合物の α -スルフィニルアリルアルコールを得、DMP(Dess-Martin periodinane) 酸化を行うことで基質となる α -スルフィニルエノンを良好な収率で得た。 α -スルフィニルエノンを立体選択的にかつ位置選択的に還元反応が進行するかを試みた時、Luche還元(CeCl $_3$ /NaBH $_4$)が最も収率が良く位置選択的(96% yield)に還元が進行することがわかったが、立体選択性(36% de) は満足のいくものでなかった。そこで種々のランタノイド塩化物とNaBH $_4$ を用いて立体選択的還元を試みたところ、YbCl $_3$ を

用いた時に立体選択性は>99% deまで向上した。種々の a - スルフィニルエノンを用いてYbC1 $_3$ を用いたところいずれの基質においても高い立体選択性を与えることを明らかとした(Miura, M. et al. *Tetrahedron : Asymmetry*, 2007, 18, 1269-1271.).

2, α-スルフィニルエノンの立体選択的転位反応の開発

1.で用いた α - スルフィニルエノンをEt。NHのような単 純な2級アミンと共存させることで、シグマトロピー転位 反応が起こり、 γ - ヒドロキシ - α - エノンが生じること が偶然にも見出された. この時, γ位の水酸基の付け根の 炭素原子は不斉点を有する事も同時に判明した事から、こ の反応が立体選択的に進行するかを検討した. Et_oNHやピ ペリジン、キラルアミン、3級アミンなど種々のアミンを 用いて検討を行ったところ、DBUを用いた時に光学純度 99% eeで転位反応が進行する事がわかった. しかし目的と する化合物の収率が低かった事(19%)から条件検討を行い、 最終的にDBUを触媒量用い,これにPPh3を共存させ反応さ せた後. 過酸化水素水を用いて酸化的な処理を行うことで 収率を改善する事に成功した (77% viold, 99% ee). 種々の α-スルフィニルエノンを用いた時も同様に良い収率並び に高い選択性で転位反応が起こることを証明した (Miura. M. et al. Organic letters, 2010, 12, 3882-3885).

このような立体選択的な還元反応や転位反応が光学活性なスルホキシドを用いることで容易にかつ選択的に進行する事を見出したことの意義は非常に大きく,水酸基の付け根に不斉点を有する医薬品や生理活性物質の簡便な合成法を提示したと言える.

会務報告

総務委員会 学内委員会 財務委員会 IT委員会 事業委員会 事 務 局

平成22年度校友会総会報告

平成22年度校友会通常総会は平成22年6月26日(土)午 後1時30分から薬学部512教室で会員52名が参加し、名誉 会長草間 貞薬学部長を迎えて開催した。総会開始前に正 会員および特別会員の物故者に対して黙祷を捧げた後、山 内 盛会長の挨拶、草間名誉会長の挨拶の後、会則により 山内会長を議長に選出した。議事に先立ち議長から議事録 署名人(田口博之氏、齋藤弘明氏)が指名された。議事に 入り、第1号議案(平成21年度庶務報告、事業報告、決算 報告ならびに監査報告)について、審議し、原案とおり承 認された。第2号議案(平成22年度事業計画案ならびに予 算案)について、審議し、原案とおり承認された。第3号 議案役員承認については、原案とおり承認された。第4号 議案奨学金制度については懸案でありました件で、審議の 結果、原案とおり専用口座を開設し、奨学金制度の立ち上 げが承認された(奨学金制度の趣旨については桜薬会会報 第52号24ページ参照)。岸田邦雄事業委員長から桜薬会会 報がマンネリ化しているようなので改革していきたとのコ メントがあった。引き続いて懇親会が多目的ホール(2号





小菅先生と会長



小梛先生

館・2階)で開催された。懇親会には、日本大学副総長・ 経済学部長小棚治宣先生をはじめ薬学部長草間 貞先生、 校友会本部事務局庶務課長江黒俊弘様、同僚学部校友会会 長など11名ならびに母校教職員多数を迎えて開かれた。名 營会長草間先生のご挨拶、ご来賓の紹介、ご来賓を代表と して副総長・経済学部長小梛治宣先生のご挨拶、本部校友 会から事務局庶務課長江黒俊弘様のご挨拶、薬学部事務局 次長塚本一道氏の音頭で乾杯し、開宴となった。懇談中、 校友会の事業である薬学部校友会研究奨励金による研究 者;小菅康弘氏に対して研究奨励給付証書が山内会長から 授与された。恒例の福引も行われ、次年度の再会を楽しみ に散会した。

平成22年度入会記念特別講演会報告



第7回入会記念特別講演会「薬学の世界」が下記の通り 新入会員(1年生および編入生)237名参加のもとで開催され、入会記念品として参加者にUSBフラッシュメモリーが 配布された。

日時:平成22年5月15日(土) 10:00~12:00

場所:薬学部6号館階段教室

演題・会社:

1. 「製薬の役割とMRの仕事」 グラクソ・スミスクライン(株) 林 礼子(45期)

2. 「東京都職員(公務員)の仕事について」 東京都健康安全研究センター 中嶋 順一(36期)

3. 「病院薬剤師の今」 日本医科大学付属千葉北総病院 福田 恵子 (22期)







平成22年度幹事会報告

平成22年度幹事会は5月28日(金)午後6時から日本大学会館において、幹事参加者37名で開催された。地方支部の活性化のために薬学部校友会支部規程(改正案)および薬学部校友会○○支部標準規約(例示)について審議し、原案とおり承認された(改正の支部規程および支部標準規約は以下に掲載)。次に平成22年度日本大学薬学部校友会通常総会・懇親会の資料について審議を行った。その際、桜薬会会報に就職情報(求人)を薬学部校友会ホームページにアップしていることを掲載して欲しいとの要望があった。

役員について

幹事(任期:平成22年度まで)

卒業期

第29期 加藤奈津江

学内幹事

高松 智(31期)、野伏康仁(49期)、小野寺祐加(55期) 役員退任

第15期 伊藤幸夫 学内幹事 渡邊雅紀

平成21年度 決算報告

○ 貸借対照表 21.4.1~22.3.31

○ 賃借対照表 21.4.1	~22.3.31
	平成21年度
I 資産の部	
1流動資産	
現金	4,213
普 通 預 金	12,619,977
郵 便 貯 金	5,147,546
立 替 金	400
流動資産合計	17,772,136
2 固定資産	
(1) その他固定資産	
国賃	30,384,434
固定資產合計	30,384,434
次立入斗	49.1EG E70
資産合計	48,156,570
Ⅱ負債の部	
1流動負債	
前受前納会費	31,058,000
流動負債合計	31,058,000
負債合計	31,058,000
Ⅲ正味財産の部	
1 指定正味財産	
指定正味財産合計	15,688,140
2一般正味財産	4.40.:
一般正味財産合計	1,410,430
正味財産合計	17,098,570
名	40.156.570
負債 及び 正味財産合計	48,156,570

○ 正味財産計算書

) 止味財産計算書	
科目	平成21年度

I一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
(1)経常収益	
①受取会費	(11,442,000)
入会金収入	2.675.000
	,,
前納当年該当分	5,313,000
学生・正会員当年分	3,454,000
0	
②受取寄付金	(28,000)
寄付金収入	28.000
时 17 亚水八	20,000
③雑収益	(1,125,953)
- ** *	
受取利息	4,699
受取国債利息	286,560
その他収入	737,022
	,
医療系・工科系収入	97,672
Art all alors a C = 1	40.000
経常収益計	12,595,953
(9) 奴帶弗田	
(2)経常費用	
①事業費	
印刷費	1,890,000
, ,,,,,	
編集費	96,700
発送費	1,575,842
卒後教育講座補助費	300,000
支部等活動補助費	317,480
学生会員活動補助費	1,641,220
医療系・工科系	97,672
HP管理費	378,000
事業費計	6,296,914
②管理費	
総会費	514,018
委員会費	79,582
印刷費	28,350
発送費	11,280
管理費	656,620
人件費	1,327,935
旅費交通費	290,940
通信費	122,110
本部等分担金	900,000
:	
慶弔費	594,967
予備費	160,000
管理費計	4,685,802
経常費用計	10,982,716
経常増減額	1,613,237
0. 经净担款计点等	
2 経常外増減の部	
(1)経常外収益	
①固定資産評価益	
=	
国債評価益	
経常外収益計	0
122 114 X 1 12 42332 P 1	
(2)経常外費用	
①固定資産売却損	(37,492)
国債評価損	37,492
経常外費用計	37,492
経常外増減額	-37.492
小土 rb 7 P P 目 /P人 rb只	-31,432
一般正味財産期首残高	-165,315
一般正味財産期末残高	1,410,430
一般正味財産増減額	1,575,745
AND AND THE DIVINE	1,070,710
Ⅱ指定正味財産増減の部	
指定正味財産期首残高	15,688,140
指定正味財産期末残高	15,688,140
指定正味財産増減額	0
AT VETT A LANGE TO BE THE	
	1
Ⅲ正味財産期末残高	17,098,570

平成22年度 予算案

○ 本部環付金

科目	予 算
1本部還付(正会員)	90,000
年会費充当	60,000
雑収入充当 (寄付金扱)	30,000
2本部還付(準会員)	9,275,000
入会金充当 (半額)	2,800,000
年会費充当	2,650,000
前納会費充当	3,825,000
合 計	9,365,000

○ 収入の部

科目	予 算
入会金	2,800,000
年会費	
前納会費積立	5,600,000
当年度納入	3,200,000
利子	5,000
雑収入	700,000
合計	12,305,000

会費納入のお願い

会員名簿資料に会費納入状況が印刷されています。 (会員番号に☆印のある方は未納です。)

未納の方は同封振込用紙で会費納入をお願いいたします。 会費は年額2,000円です。

事務簡素化のため5年分10,000円又は10年分20,000円 を一括納入して頂ければ幸甚です。

○ 支出の部

○ 支西の部	
科目	予 算
1事業費合計	7,240,000
①会誌発行費	
印刷費	2,000,000
編集費	120,000
発送費	1,700,000
②活動補助費	
卒後教育講座	300,000
支部等	350,000
学生会員	2,000,000
医療系・工科系	370,000
③HP管理費	400,000
2管理費合計	5,065,000
①会議費	
総会費	600,000
委員会費	100,000
②事務局費	
管理費	790,000
人件費	1,600,000
旅費交通費	300,000
通信費	200,000
③その他	
本部等分担金	530,000
慶弔費	650,000
④予備費	295,000
合計	12,305,000

会合予告

第22回桜薬祭のご案内 母校を訪ねる日

第22回桜薬祭(薬学部学園祭)が来たる10月30日(土) ・10月31日(日)の両日、薬学部校舎で開催されます。

薬学部校友会では、10月30日(土)を「校友の母校を訪ねる日」と定めて当日参加校友(工学部薬学科・理工学部薬学科・薬学部卒業生)に昼食券(500円)を進呈しております。当日は校友会提供の「桜薬クイズ」や学生会員の研究発表も行われております。校友の皆様お誘い合わせの上ご来校ください。多数のご参加をお待ちしております。

昭和48年入学者同窓会 『薬茶(やんちゃ)48会』の開催予告

平成22年11月21日(日)昼に恵比寿『ウェスティンホテル東京』で開催。

案内状が未着の同級生の方は幹事: 菅野圭介 (<u>携帯電</u> <u>話090-4738-5463又はメールアドレスkannoks@sykjp.com</u>) にご連絡ください。

「故澤村良二先生を偲ぶ会」ご案内

本年2月24日に急逝されました故澤村良二先生を偲ぶ会を下記のように開催いたします。

日 時:平成23年2月13日 (日)13:00~16:00 場 所:アルカディア市ヶ谷 TEL 03-3261-9921

発起人代表:小山隆,長谷川明,松島章浩,前田敏晴,山中健三 木村由美子,立川眞理子,岡田博,加藤孝一

問合せ先: 立川眞理子(環境衛生学ユニット)047-465-5846

E-mail: <u>tachikawa.mariko@nihon-u.ac.jp</u> 木村由美子 0422-22-2705

E-mail: <u>y-kimura@xb3.so-net.ne.jp</u>

26期 卒後30周年一泊の旅 緊急企画決行予定

開催日:平成23年3月20~21日

場 所:熱海

参加希望者は11月末までに、木下に連絡して下さい

薬学部校友会支部規程

日本大学薬学部校友会(以下「本会」という。)会則第 3条の規程に基づき、本会の支部に関し、次の規程を定め る。

- 第1条 本会には、次の支部を置くことができる。
 - (1) 地区支部
 - (2) 職域支部
- 第2条 支部の設立については、当該支部の代表者から、 当該支部の名称、規約及び会員名簿を添付して、支 部設立について申請があったとき、次の(1)及 び(3)、又は(2)及び(3)に適合し、かつ、運 営委員会の承認が得られた場合に認めることと する。
 - (1) 地区支部にあっては、原則として都道府県を単位とする支部であること。
 - (2) 職域支部にあっては、同一職務に従事する正 会員が参加している支部であること。
 - (3) 申請書に添付された支部規約及び会員名簿からみて、当該支部の活動は本会の目的に沿うものであり、かつ、本会の名誉を傷つける恐れがないと判断される支部であること。
- 第3条 会長は、前条による運営委員会の承認が得られた 場合には、速やかに当該支部の代表者(以下、支 部長という)に、申請された支部の設立を本会と して承認した旨の通知を文書をもって行なうこと とする。
- 第4条 支部長は、支部の規約に変更があったときはその 規約を、また、会員名簿を作成したときはその名簿 を、速やかに会長に報告するものとする。
- 第5条 支部の活動が本会の名誉を傷つけたり、または、本会として好ましくないものであった場合は、会長は運営委員会にはかり、当該支部についての本会の支部としての承認を取り消すことができる。この場合の取消は、文書をもって支部長に通知することによって発効することとする。

附則 (施行期日)

この規程は、平成22年5月28日より施行する。

昭和57年12月6日 施 行 昭和63年10月12日 一部改正 平成14年4月5日 一部改正 平成22年5月28日 一部改正 幹事会承認

薬学部校友会() 支部標準規約(例示)

- 薬学部校友会支部規程に基づき、支部規約を定める。
- 第1条 本会は薬学部校友会(通称:日本大学桜薬会) ○○支部と称する。
- 第2条 本会は会員相互の親睦と向上を図り、母校および 薬学部校友会の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は、その目的を達成するために次の事業および活動を行う。
 - 1) 会員の親睦に必要な会員相互の連絡
 - 2) 名簿その他の印刷物の刊行
 - 3) 母校および薬学部校友会の諸事業への協力なら びにこれに伴う会員への連絡
 - 4) その他の必要な事項
- 第4条 本会の会員は薬学部校友会正会員で組織する。
- 第5条 本会は次の役員を置く。
 - 1) 支部長 1名
 - 2) 副支部長 若干名
- 第6条 本会の支部長は支部総会において選出する。
 - 2 副支部長は支部長が指名し、支部総会で承認する。
- 第7条 支部長は本会を代表して、会務を総括する。
 - 2 副支部長は支部長を補佐し、支部長に事故がある時はその職務を代行する。
- 第8条 総会は通常総会と臨時総会とする。
- 第9条 本会の経費は会費・寄付金およびその他の収入を 充てる。
- 第10条 その他必要事項は支部総会で決めることができる。

会費納入報告

財務委員会

会費を納入いただきました方々の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがありましたらお知らせください。本部準会員(学生会員)会費納入者は人数のみのご報告とさせていただきます。 (平成22年2月16日~8月15日)

会費納入者

2.000円納入者

56池田秀雄, 57黒瀬真子,田妻正吉 58佐藤雅子 59木村清楢崎近,矢野哲比古 60有澤宗久,吉川登志江,高野俊彦 61岩瀬光江, 辻厚子 62松山裕治 63泉澤晴子,鈴木郁子 64廣瀬慶子,向井葵65秋元敦信 69岸田邦雄 70吉山守 72森川邦子,山下和代 73久保山昇 74松村昌子 75小泉清美 76片桐秀明 77藤田智子 79大塚正征,田邉浩二,松本明美松本道明 81谷川清澄 82渡辺正実84 加藤泉 86大月久朗 87藤本久美 94小柳英一 97岡添進,中里裕之 00高橋千絵 05有村啓子 08曽我部秀文 以上42名

4.000円納入者

56笠井能子 57石黒文夫,石黒由美子 58大淵洋子,恩田正昭 59 國友玲子 63国領文子 72陰山英生 85慶野哲雄 88疋田典子 95 今田吉宣 99久保田令枝 以上12名

5.000円納入者

10井戸川いぶき

以上1名

6,000円納入者

56川口洋史 57澤野俊彦 58木塚正勝,髙取和郎 64金子幹宏 79 三浦数典 86松田一 以上7名

10,000円納入者

56鈴木智晴,横林豊子,分林孝夫 57松岡茂樹 58大久保令子,小 川昌保,小家初夏,金光継道,徳竹伯夫,徳竹喜子,中村勝義,野口登 美 59牛尾俊江、岡田玉恵、小野寺旭子、笠原雅美、佐野三穂、島峯望 彦.根本乃夫 60川上恭子.小松寛.山本忠宏 61佐藤文子.四條邦 雄,清水公乃,清水妙子,富田貞子,丸山紀子 62石川春恵,伊藤多 美子.滝田雅子.平林正行.安田園子 63青木正忠.今川民子.大野 秀彦、木村昌稔、清水夫佐子、千葉貴司、津村眞知子、平川ミヅホ、横 山やえ子.吉川明継 64金川栄子.菅井昌子.辻桂子 65坂田達哉. 佐々木邦郎、土川利昭、長谷川紀子、浜野慧子 66生亀モト子、糸井 欣三.大野久美子 67星降志.增渕美子 69阿部力.井関知子.内田 康夫,岡島宏,佐々木泰尚 71杉山毅 72安藤清子,大石成子,大河 原義重、金岩孝夫白﨑裕子、宮本俊男、吉田守、吉野美佐子 73大川 成司,竹内一雅,三浦修 74小野太郎,平井幹廣,山上和夫 75久保 田泉,成田雅洋,間久雄 76進藤美和子,高田義郎77蔭山幸江,苅部 博哲.長澤京子.平野和子.皆川弓代 78川口伸一.小林亮子.吹田好 弘 79伊藤昌美,小倉明子,佐藤久子,商增智,牧野宏,横山薫 80松 本淳二 81石渡晴代,今田香織,岡村章二,小野泰子,北村奏,黒川眞 哉,公山由紀夫,芝絹子,高橋美子,加藤雅子,田窪康雄,福田雅子,水 野直子 82 戸 高孝子. 榎本裕見子. 栗原孝. 西部拓也. 福重潤子 83 石井一弘,造賀裕子,寺嶋智津子 84堀美鈴 85小野幸夫,土志田和 正,服部浩子,服部洋三,保延芳子,箕浦雄二 86保坂さとみ,城戸万 代,和田幸子 87月井英喜,野田浩道,星野正俊,本東由香里 88内 山武人,坂上逸孝 89栗林和美 90内田行彦,大根有司,真坂裕美, 渡部佳子,刈間香,小林京子 92齋藤慈子 93沢田敬子,坪内進 94 中島千春 95川口浩史 98勝又康一 99竹木正亘,本江麻美 01田 上幸光 03太田智子

以上150名

12,000円納入者

62立石哲郎 以上1名

14,000円納入者

60斉藤文夫 以上1名

20,000円納入者

57山長みどり 60 鎺俊夫 71藤原良雄 75小勝順 77原島良一 81 小林典子 83興津新二 86渡辺良一 89新井勝 92貞包啓雄 93 五十嵐愛 94神長知宏 97古津みを 00小菅宏子 02佐野絵美子

以上15名

平成21年度本部正会員会費納入者 (薬学部校友会へ会費還付があったもの)

56原田貞亮 57一ノ瀬衛 59山内盛 60斉藤文夫 61前田敏晴 62 山崎美江 64小松康宏,渡邊和子 68高橋繁治 69内倉和雄,坂田 秀臣 70草間貞 72宮本俊男 74伴野和夫 75土井正道,鎌田みづ 江 76石田制利,鈴木孝,本橋重康,吉田善一 77塚本利夫 78阪本 智子,高野英夫 80梅沢芳史 81高柴泰子,三浦啓一 82坂本直隆 94土屋晃一 96荒川基記 07福島恵太 以上30名

平成21年度本部準会員会費納入者人数 (薬学部校友会へ会費還付があった者)

学部2年 1名 学部4年 1名

以上2名

平成22年度本部準会員会費納入者人数 (薬学部校友会へ会費還付があった者)

博士 1 年	4名	
博士2年	7名	
博士3年	11名	
修士2年	29名	
学部1年	268名	
学部2年	277名	
学部3年	250名	
学部4年	228名	
学部5年	227名	

以上1,301名

奨学・研究奨励基金

12,000円寄付者

70吉山守 以上1名

14,000円寄付者

60斉藤文夫 以上1名

卒業期別年会費納入率 (平成22年度分)

校友会活動は会員の年会費により運営されております。しかし、会費納入者が少なく、校友会の運営に支障をきたしております。 参考までに卒業期別会費納入率を示しておきます。是非とも年会費の納入をよろしくお願いいたします。

平成22年8月15日現在

期	卒年	卒業生数	納入者数	 納入率
1	S31	116	40	34.48
2	S32	111	34	30.63
3	S33	152	35	23.02
4	S34	152	53	34.86
5	S35	127	40	31.49
6	S36	173	49	28.32
7	S37	144	39	27.08
8	S38	150	54	36.00
9	S39	172	54	31.39
10	S40	143	53	37.06
11	S41	133	29	21.80
12	S42	116	18	15.51
13	S43	89	17	19.10
14	S44	147	21	14.28
15	S45	183	24	13.11
16	S46	230	37	16.08
17	S47	275	39	14.18
18	S48	236	34	14.40
19	S49	242	27	11.15
20	S50	212	25	11.79
21	S51	170	21	12.35
22	S52	285	48	16.84
23	S53	261	31	11.87
24	S54	271	45	16.60
25	S55	253	33	13.04
26	S56	259	63	24.32
27	S57	203	44	21.67

		//Q22 O / J 10 H 9/L H		
期	卒年	卒業生数	納入者数	納入率
28	S58	180	33	18.33
29	S59	175	35	20.00
30	S60	213	42	19.71
31	S61	210	36	17.14
32	S62	210	38	18.09
33	S63	245	33	13.46
34	H1	185	23	12.43
35	H2	200	16	8.00
36	Н3	221	23	10.40
37	H4	208	20	10.40
38	Н5	254	24	9.44
39	Н6	200	25	12.50
40	H7	186	12	6.45
41	Н8	270	29	10.74
42	Н9	210	25	11.90
43	H10	210	18	12.22
44	H11	240	27	11.25
45	H12	230	19	8.26
46	H13	220	161	73.18
47	H14	190	114	60.00
48	H15	225	120	53.33
49	H16	216	154	71.29
50	H17	240	148	61.66
51	H18	195	101	51.79
52	H19	241	231	95.85
53	H20	249	244	97.99
54	H21 · 22	275	271	98.54
/ 누고US 11 184 . 1 184 . 1 184 . 1 18 . 1 18 . 1 18 . 1 18 . 18 .				

(卒業生数は物故者を除く)

日本大学校友会正会員募集中

皆様は日本大学薬学部校友会が、日本大学校友会の下部組織として活動していることはすでにご存じのことと思います。薬学部校友会は卒業生を正会員に、在校生を学生会員として構成しております。日本大学校友会では卒業生全員に、毎年2月頃、校友会誌「KIZUNA(絆)」を送付し、別途登録して頂いた校友を正会員(会費10,000円)として正会員会誌「桜縁」(年2回発行)をお届けしております。正会員会費の一部は薬学部校友会へ納入翌年に還付されます。還付金は還付当年度の薬学部校友会会費として納入者名で処理させて頂いております。ぜひ正会員登録をして頂きたくお願い致します。詳細は薬学部校友会事務局まで問い合わせて下さい。

登録・会費納入に際して郵便振替用紙記入の時、「所属する支部・部会」欄に必ず「薬学部校友会」と記入して下さい。 無記入ですと本会に還付されませんので、薬学部校友会会費に振り替えることが出来ません。ご注意下さい。

発行日 平成 22 年 10 月 15 日

編集人 日本大学薬学部校友会事業委員会

発行人 日本大学薬学部校友会 山内 盛

印刷所 協友印刷(株)

TEL 03-3267-8056

発行所 千葉県船橋市習志野台7-7-1

日本大学薬学部内 (〒 274-8555) 電話·FAX 047-465-1478 (直通)

e-mail: alumni@pha.nihon-u.ac.jp 振替口座番号 00140 - 0 - 53798

振替口座名 日本大学薬学部校友会